

築城飛行場周辺まちづくり構想 基本構想

～新たなコミュニティ拠点施設の整備～

**令和 2 年 10 月
福岡県みやこ町**

目次

序章	・・・・・・・・・・1
1. 背景と目的	
2. 基本構想の対象地	
3. 策定体制	
第1章 みやこ町・豊津地域の概要	・・・・・・・・・・4
1. 沿革	
2. 位置・面積	
3. 地勢	
4. 気候	
5. 人口	
6. 土地利用（法規制状況）	
7. 公共交通	
8. 防災	
9. 航空自衛隊築城基地	
第2章 上位関連計画との関係性	・・・・・・・・・・14
1. 第2次みやこ町総合計画	
2. 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略	
3. みやこ町都市計画マスタープラン	
4. みやこ町公共施設等総合管理計画とみやこ町公共施設再配置計画	
5. みやこ町地域防災計画	
6. 京築広域景観計画	
第3章 住民意向の把握	・・・・・・・・・・24
1. 調査の概要	
2. 調査結果	

第4章 まちづくりの課題 26

1. 公共施設の再配置と利用促進
2. 住民の豊かな交流を育む機能導入
3. 避難所の機能強化
4. 災害における必要な物資などの備蓄
5. 交流に関する住民の活動促進

第5章 基本構想 28

1. 基本理念
2. 基本方針
3. 整備方針

第6章 今後の進め方 32

参考資料 33

1. 策定のプロセス
2. 住民意向調査
3. 築城基地の現況把握と意見交換
4. パブリックコメント結果

序章

1. 背景と目的

(1) 背景

本町は、第2次みやこ町総合計画において、将来像として「わたしたちが未来を創り 人と自然が輝き つづける みやこ町」を掲げており、実現目標として「夢をもち、心豊かな人を育てるまちづくり」や「元気で安心して生活できるまちづくり」などを設定し、将来像の実現に向けた取り組みをおこなっています。

一方、全国的な人口減少時代の到来は本町においても例外ではなく、昭和60年(1985)をピークに人口の減少傾向が続いています。さらに、人口の39.1%が65歳以上であり、高い高齢化率となっています。未来を創るコミュニティを維持していくためには、町のにぎわいや活力を創出していく必要があります。

加えて、近年各地において自然災害が相次いで発生しています。本町は、航空自衛隊築城基地(以下、築城基地)が隣接しており、自衛隊と連携した防災や災害時対応などの取り組みを推進してきました。今後、元気で安心して生活できるまちづくりを進めるためには、災害への備えをより一層強化することが重要となっています。

町のにぎわいや活力の創出と防災機能の強化に向けたまちづくりの推進にあたっては、コミュニティ拠点施設に様々な役割が期待されます。しかし、町の公共施設の多くが更新が必要な時期となりつつあります。

このような背景をふまえ、本町では、町のにぎわいや活力の創出と防災機能の強化に向けて、築城基地が隣接する地域の実態をいかながら、新たなコミュニティ拠点施設を整備することが求められます。

(2) 本構想の目的

本構想は、町のにぎわいや活力の創出と防災機能の強化に向けた新たなコミュニティ拠点施設の整備を目的に策定するものです。

コミュニティ拠点施設は築城基地と住民との交流、連携を図ったまちづくりの場となることも期待されることから、本構想は、防衛省所管の補助事業である「まちづくり構想策定支援事業」の採択を受けて策定しました。本構想では、住民の意向をふまえながら、コミュニティ拠点施設の整備の方向性を取りまとめます。

2. 基本構想の対象地

本構想の対象地は、住民の利用しやすさや防災上の安全性をふまえ、第一種区域（※注1）内であり、高台で公共施設が集積している豊津公民館とその周辺とします。

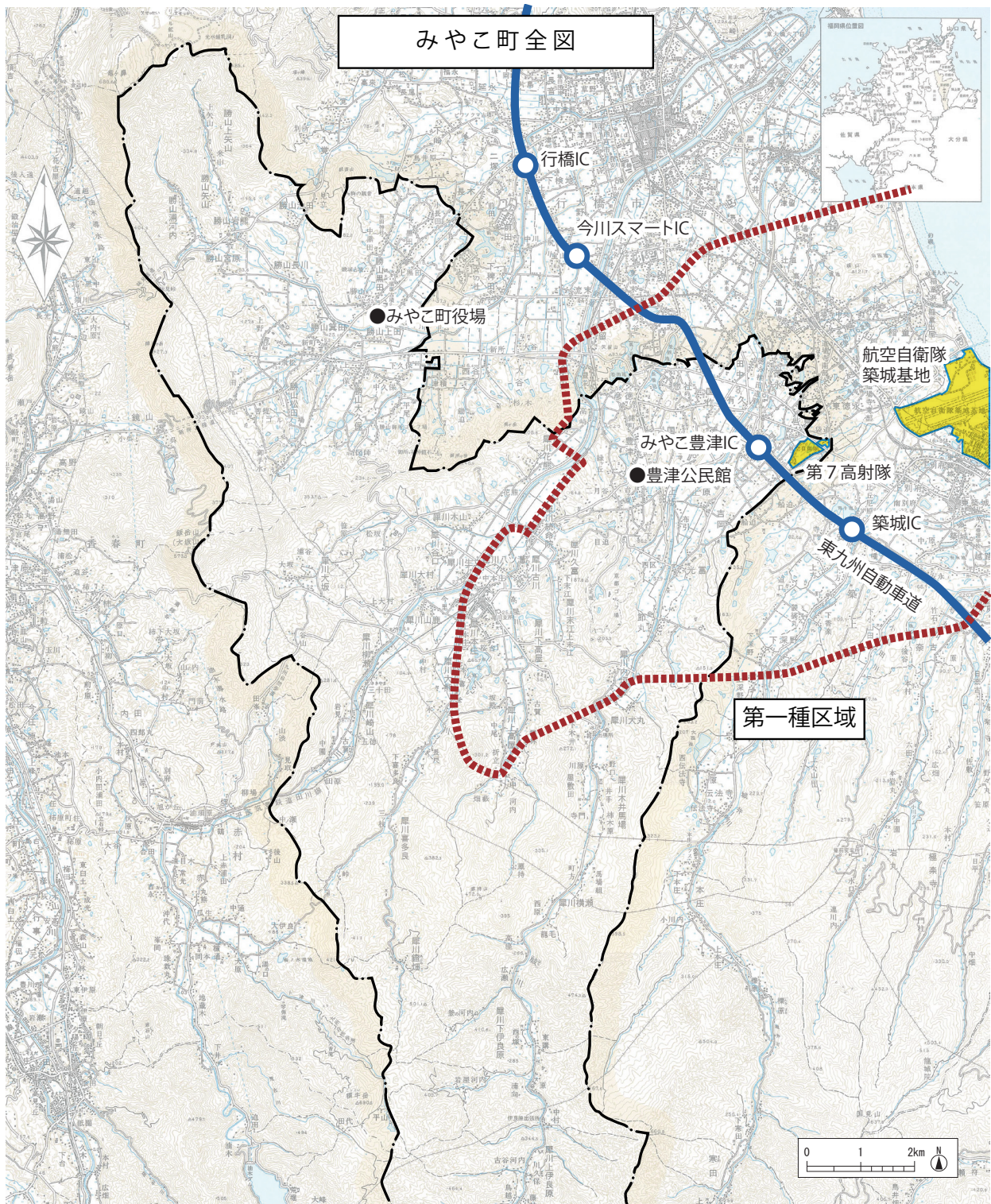


図 基本構想の対象地

（※注1）第一種区域とは、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律第4条に基づき、飛行場などの周辺の航空機の音がうるさい地域として防衛大臣が指定する区域です。区域が指定されたときに所在する住宅を所有している方などが行う防音工事に対して助成が行われます。

3. 策定体制

本構想の策定体制を以下に示します。

まちづくり構想検討委員会・構想検討会議・事務局の構成、および住民参画の概要や策定プロセスについては、巻末の参考資料に示します。

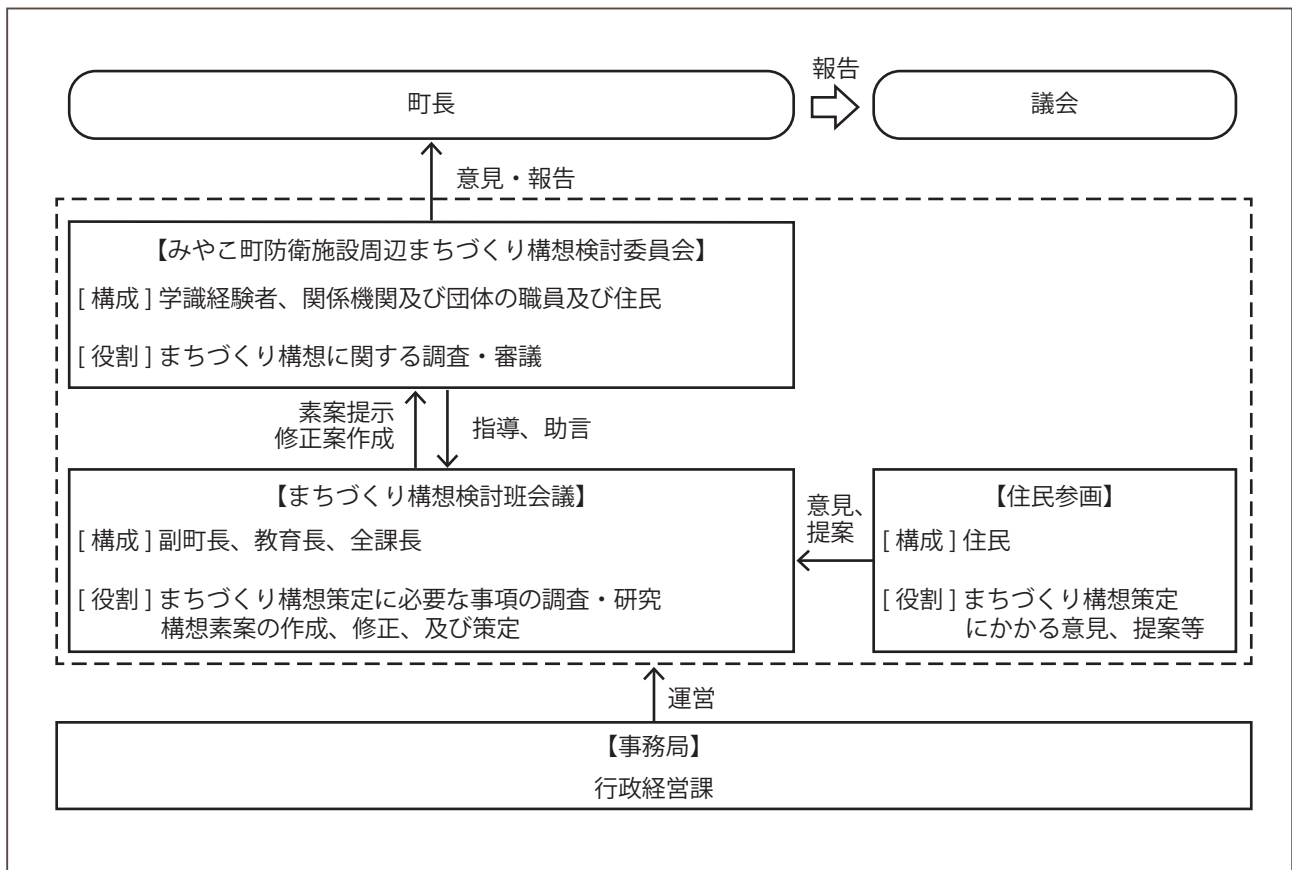


図 策定体制

第1章 みやこ町・豊津地域の概要

1. 沿革

本町は、旧豊前の国8郡の中心地として、国府や国分寺が置かれ、政治・文化の中心地として、古くから交流・交易によって栄えた地域に位置しています。隆盛を極めた山岳信仰などは、人々の交流を極め、今でもその名残があります。幕藩体制下では、中世の宇都宮氏、江戸期の小笠原氏との関りが深く、今日までその歴史が語り継がれています。

他方、京築地域のほぼ中央部に位置する本町は、昭和の大合併により犀川町、勝山町、豊津町の3町となり、それぞれ個々の地方自治体として、個性ある地域づくりに取り組んできました。昭和45年(1970)には、広域的な行政需要に対して「京築広域市町村圏事務組合」を組織し、相互に連携、協力し、住民サービスの向上に努めてきたところです。そして、平成18年(2006)3月20日、犀川町、勝山町、豊津町の3町の合併によって「みやこ町」の誕生に至っています。(※以下、旧犀川町、旧勝山町、旧豊津町をそれぞれ犀川地域、勝山地域、豊津地域と言います。)

2. 位置・面積

本町は、福岡県の北東部に位置し、東は行橋市、築上町、北は北九州市及び行橋市、西は香春町、赤村、添田町の筑豊地域、南は大分県に接しています。総面積151.34km²の町です。

豊津地域の東に築城基地の一部(第7高射隊)が位置し、そこから約1.5km離れた場所に飛行場があります。



図 本町の位置／出典：第2次みやこ町総合計画

－みやこ町の地域と地区および築城基地の位置－

犀川、勝山、豊津の3地域の範囲は以下のとおりです。3地域は11地区、豊津地域は節丸、豊津、祓郷の3地区に分けられます。町内では、築城基地の第7高射隊が祓郷地区（皆見）にあります。

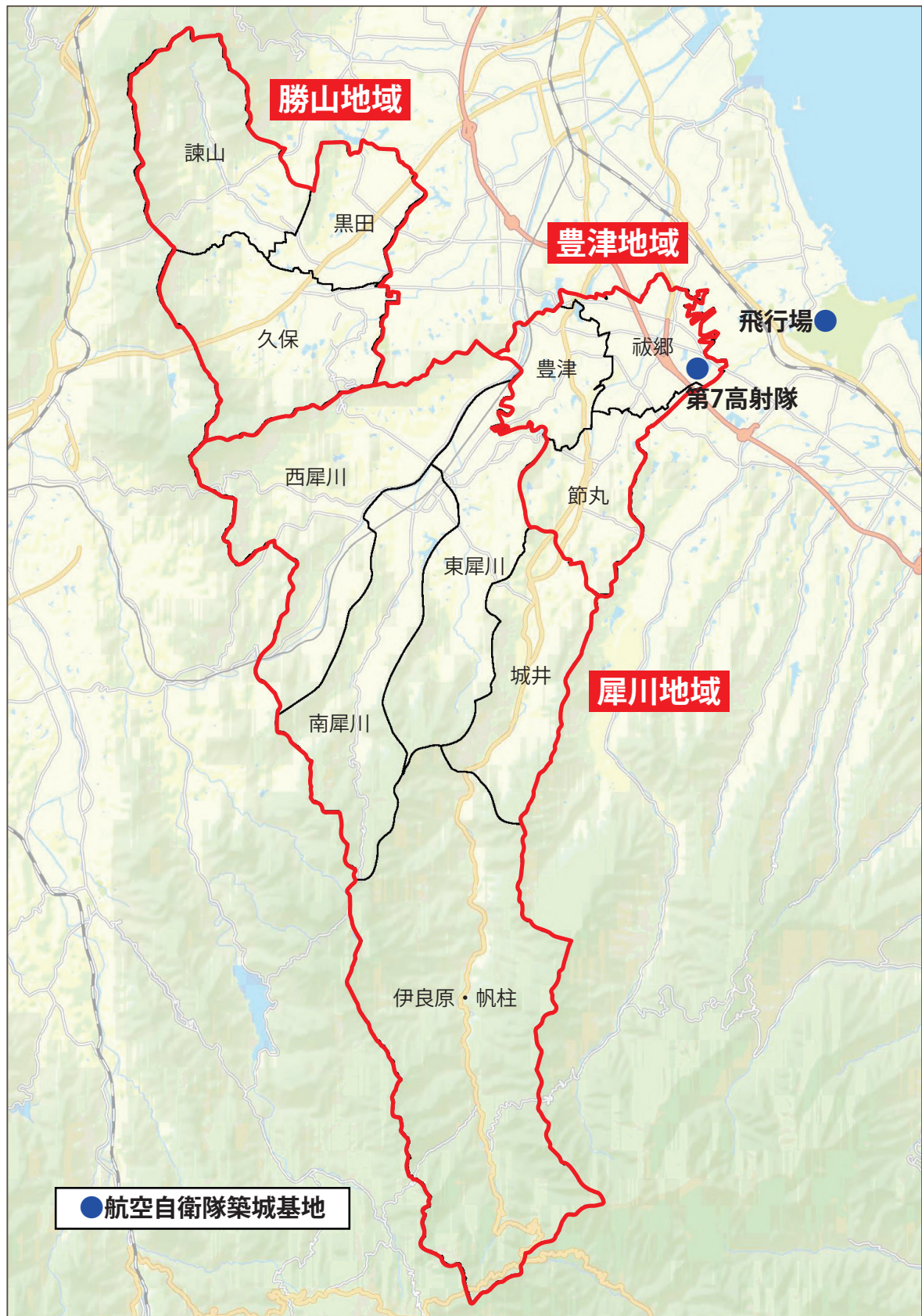


図 地域と地区／出典：みやこ町地域防災計画を一部加工

3. 地勢

本町は、北は北九州市及び行橋市と接し、西は焼尾峠から大坂山を經由し障子ヶ岳を結ぶ稜線で田川郡添田町、赤村、香春町と、東は行橋市、築上町、南は英彦山を分水嶺として大分県中津市に接した東西 13.2km、南北 28.4km のクサビ型をした町域を形成しています。

犀川地域は、町域の約 65% を占め、その多くが山地となっています。西側は大坂山（標高 573m）から特牛岳（標高 691m）、焼尾峠に延びる山稜が、また南側は鷹巣山（標高 979m）を始めとする英彦山系の急峻な山々が連なっています。東側は築上町との境をなす標高 200 ～ 800m の稜線がほぼ直線的に延びています。これらの山塊中を縫うような形で、本地域の主要河川である今川と祓川が北北東方向に犀川地域の中央部を貫流しており、また今川の支川として喜多良川や高屋川が北流しています。これらの河川沿いに細長い谷底平野が形成され、集落地や市街地となっています。

勝山地域は、本町の北西部に位置しその三方を鹿ヶ峰（標高 232m）や竜ヶ鼻（標高 681m）、障子ヶ岳（標高 427m）、大坂山（標高 573m）に囲まれた盆地状の地形を示し、その中央部には行橋市街地を通過して周防灘に流下する長峽川が流れています。この長峽川沿いには細長い谷底平野が形成されているほか、上記山塊の山麓部には比較的平坦な台地が発達しています。

豊津地域は、地域の中央部を祓川が北北東方向に貫流し、その両岸には標高 40 ～ 100m 前後の台地面が広がっています。この台地上には国府や国分寺が置かれていましたが、これはこの地域が災害に対してより安全であったことが関係していると考えられます。祓川沿い等には細長い谷底平野が形成されていますが、行橋市との境界となる国作付近では「みやこ平野」の一部をなす平坦地が広がっています。

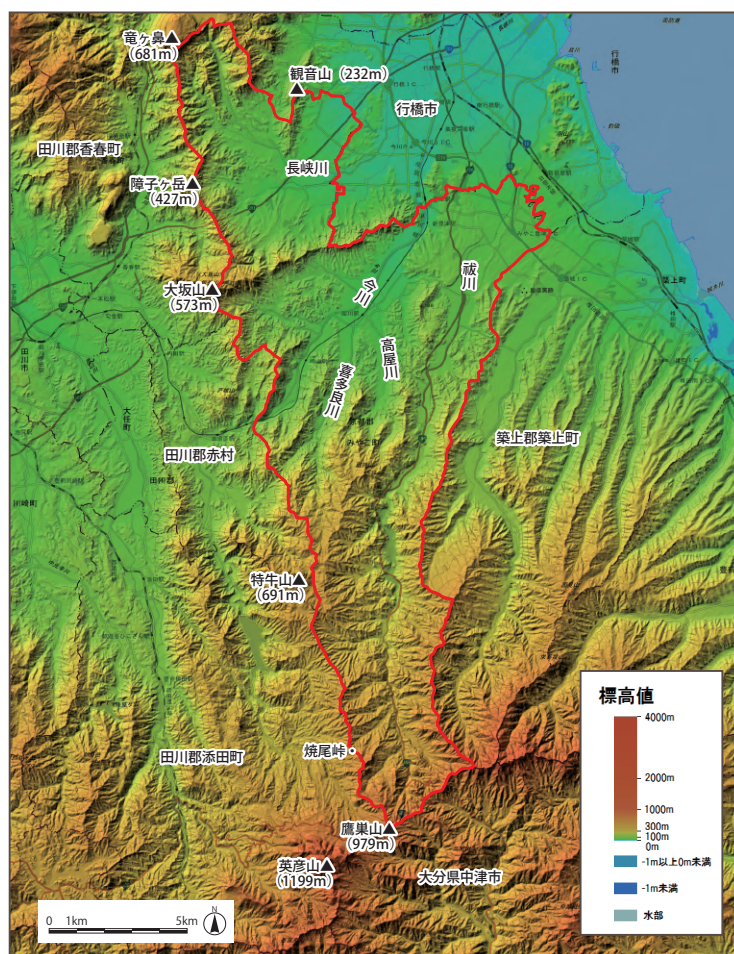


図 本町の地勢／資料：地理院地図（国土地理院 HP）

4. 気候

九州北部に位置する本町は、瀬戸内海型の気候区に属しています。行橋観測局による気象観測結果(30年間)によると、夏の最高気温は8月で35.5℃に及びます。月ごとの降水量の変化では、梅雨と台風の影響で、6月～7月に降水量が多くなります。

平成30年(2018)7月には日最大降水量292mmが観測されており、最大24時間降水量の記録を更新しています。記録的大雨による災害の懸念も増加しています。

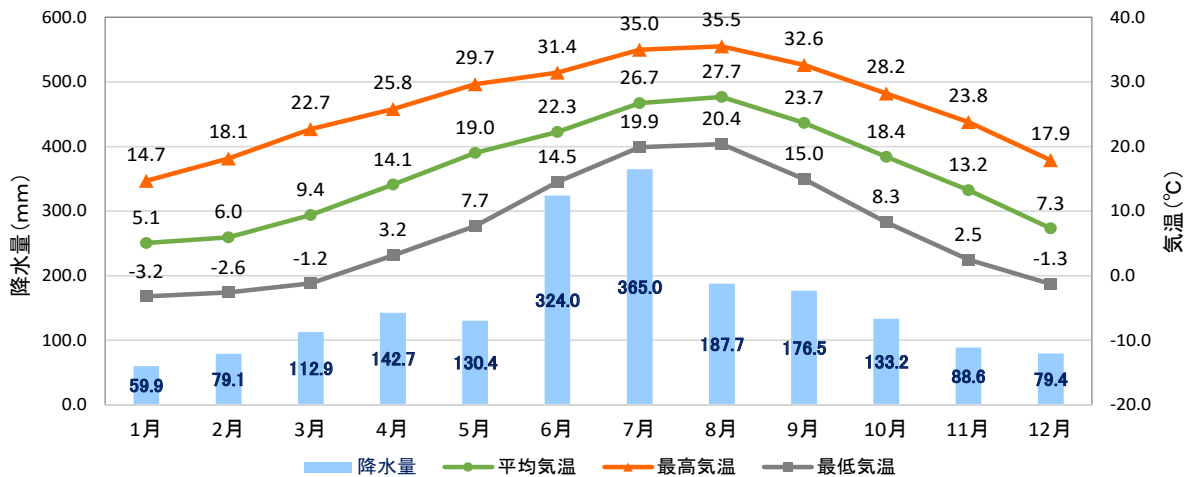


図 気温と降水量／出典:気象庁ホームページ(行橋観測局平成22年(2010)～令和元年(2019)の平年値)

5. 人口

本町の人口(平成31年(2019)現在)は、19,891人(住民基本台帳より)であり、減少傾向が続いています。65歳以上の老年人口は、全体の39.1%を占め、高い高齢化率となっています。今後も高齢化が進行すると予想されます。

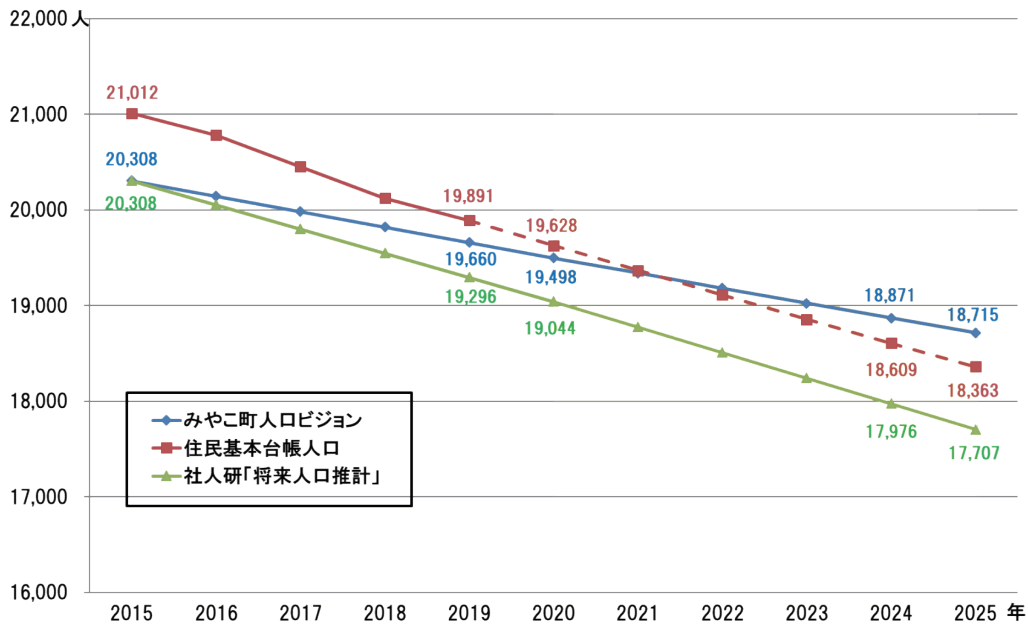


図 社人研人口推移、町の人口動態実績

出典：国立社会保障・人口問題研究所「将来人口推計」(平成27年(2015)～令和7年(2025))、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」(平成27年(2015)～令和元年(2019))、みやこ町「みやこ町人口ビジョン」(平成27年(2015)～令和7年(2025))

※令和2年(2020)以降の住民基本台帳人口(予測)は、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」に基づきみやこ町作成

6. 土地利用（法規制状況）

本町では、豊津地域全域が都市計画区域（非線引き）、勝山地域南部と犀川地域北部一帯が準都市計画区域に指定されています。都市計画区域と準都市計画区域は、ともに用途地域の指定はありません。建蔽率 70%、容積率 200%、道路斜線制限 20 m 1.5、隣地斜線制限 31 m 2.5 です。

他方、平坦地を中心として、広く農業振興地域が指定され、農用地が広がっています。農用地の基盤整備はほぼ完了しています。犀川地域南部には、保安林や国有林が広がっています。犀川地域の帆柱地区は自然公園の特別地域に指定されています。

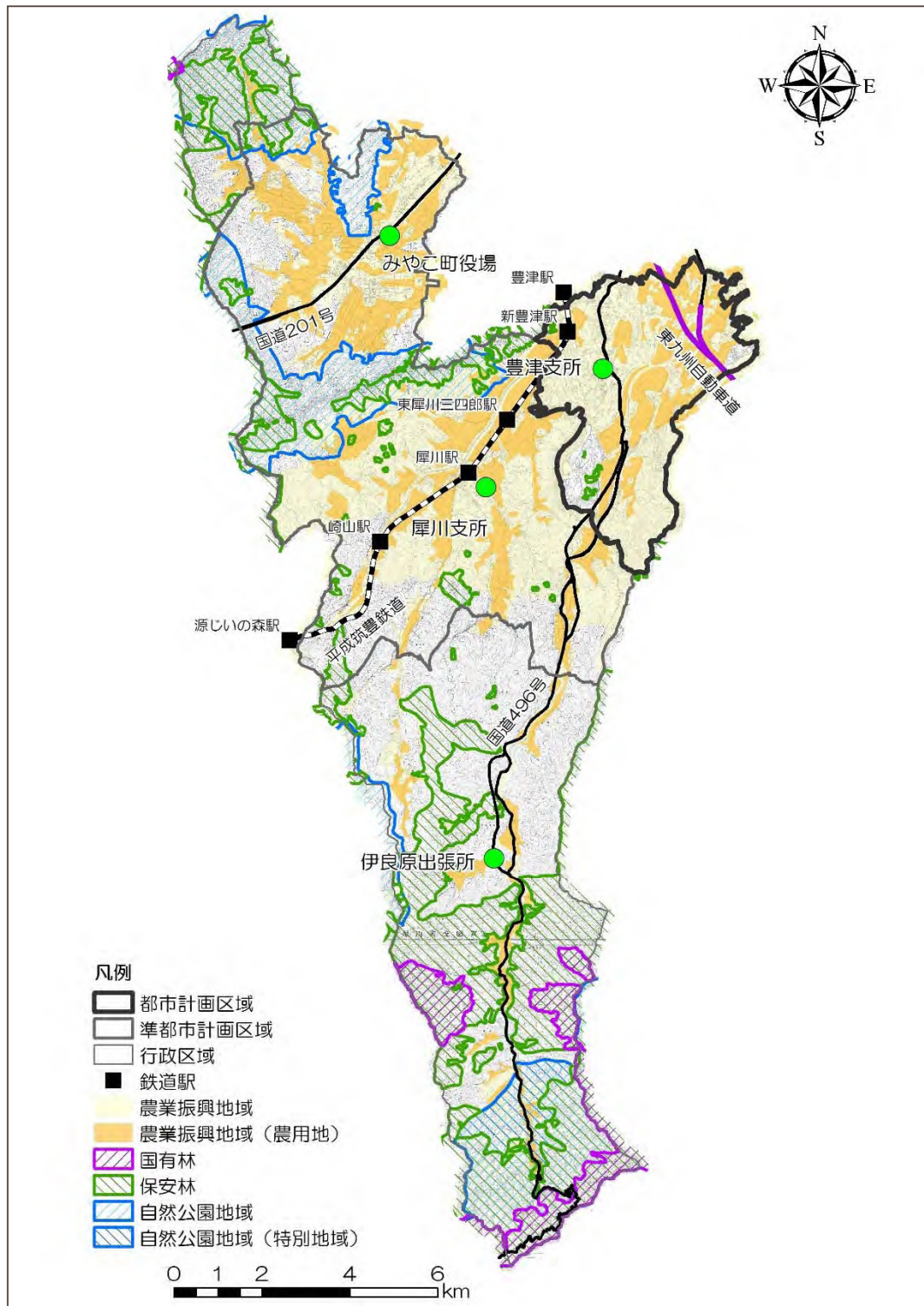


図 土地利用規制の指定状況／資料：国土数値情報（国交省 HP）

7. 公共交通

本町の公共交通は、豊津地域から犀川地域を通る鉄道（平成筑豊鉄道）及び国道 496 号と国道 201 号を主なルートとする路線バス（太陽交通、犀川ミニバス）により構成されています。

豊津公民館については、路線バスのルート沿いに位置しています。

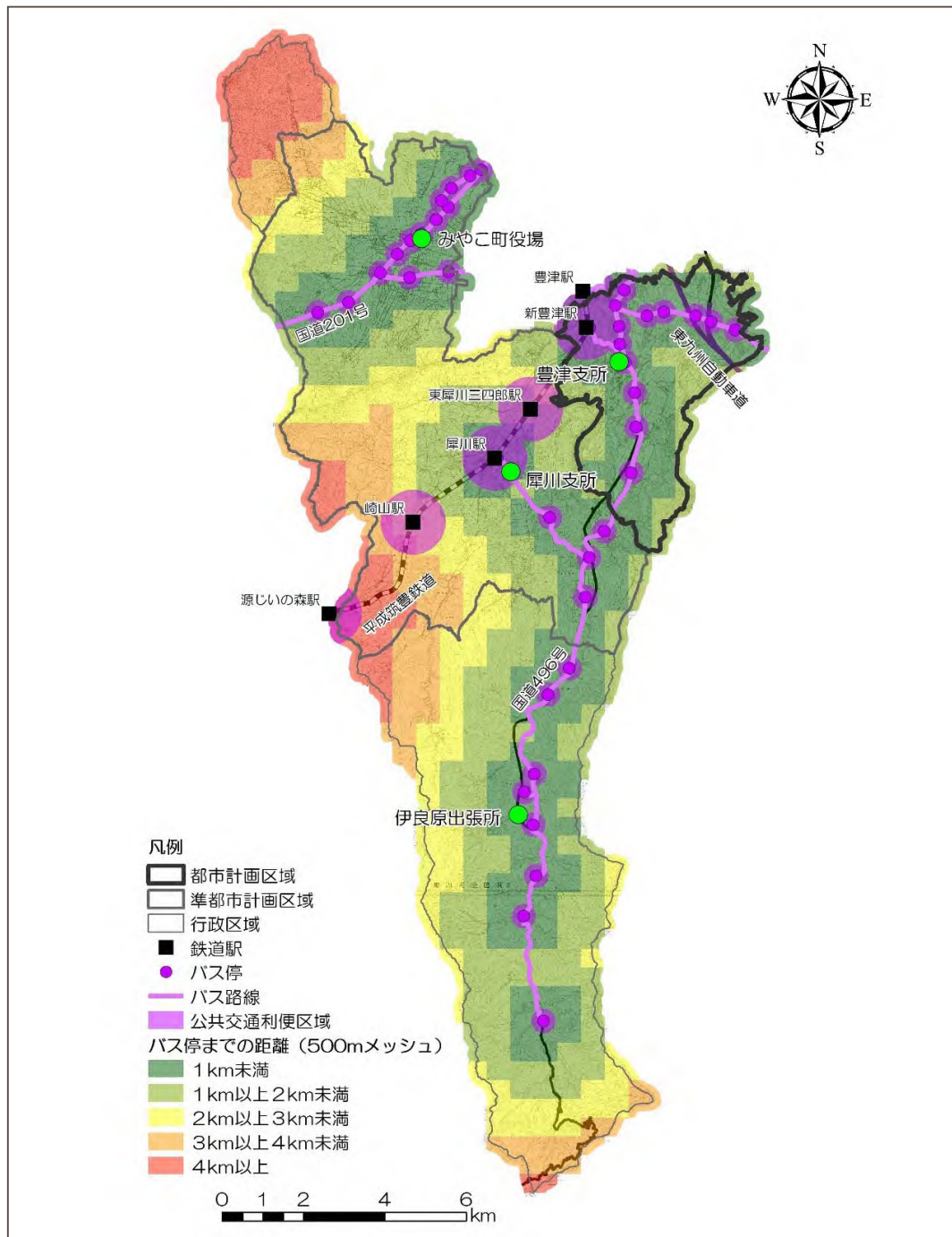


図 公共交通施設の利便状況／資料：都市計画基礎調査

なお、鉄道駅から 800 m、バス停から 300 mを公共交通利便区域とした場合、都市計画区域、準都市計画区域内においても公共交通の不便な地域が広く存在しています。本町では、平成 25 年（2013）3 月「みやこ町生活交通ネットワーク計画」を策定し、町内に住む人が、自家用車を持たずとも、買い物や通院など、生活を維持していくために最低限の必要な公共交通体系の構築に取り組み、公共交通が不便な地域を対象として、あいのりタクシーを導入しました。

8. 防災

本町は、勝山地域を流れる長峽川、犀川地域から豊津地域方向に流れる今川や祓川沿いが浸水深 2.0 ～ 5.0 m 未満の浸水想定区域となっています。

犀川、勝山、豊津の各地域には、地形的要因から、土石災害特別警戒区域や土石災害警戒区域に指定されるところも多くあります。

なお、豊津公民館一帯は、台地上に位置しており、水害や土石災害の危険性は比較的低い地域にあると言えます。

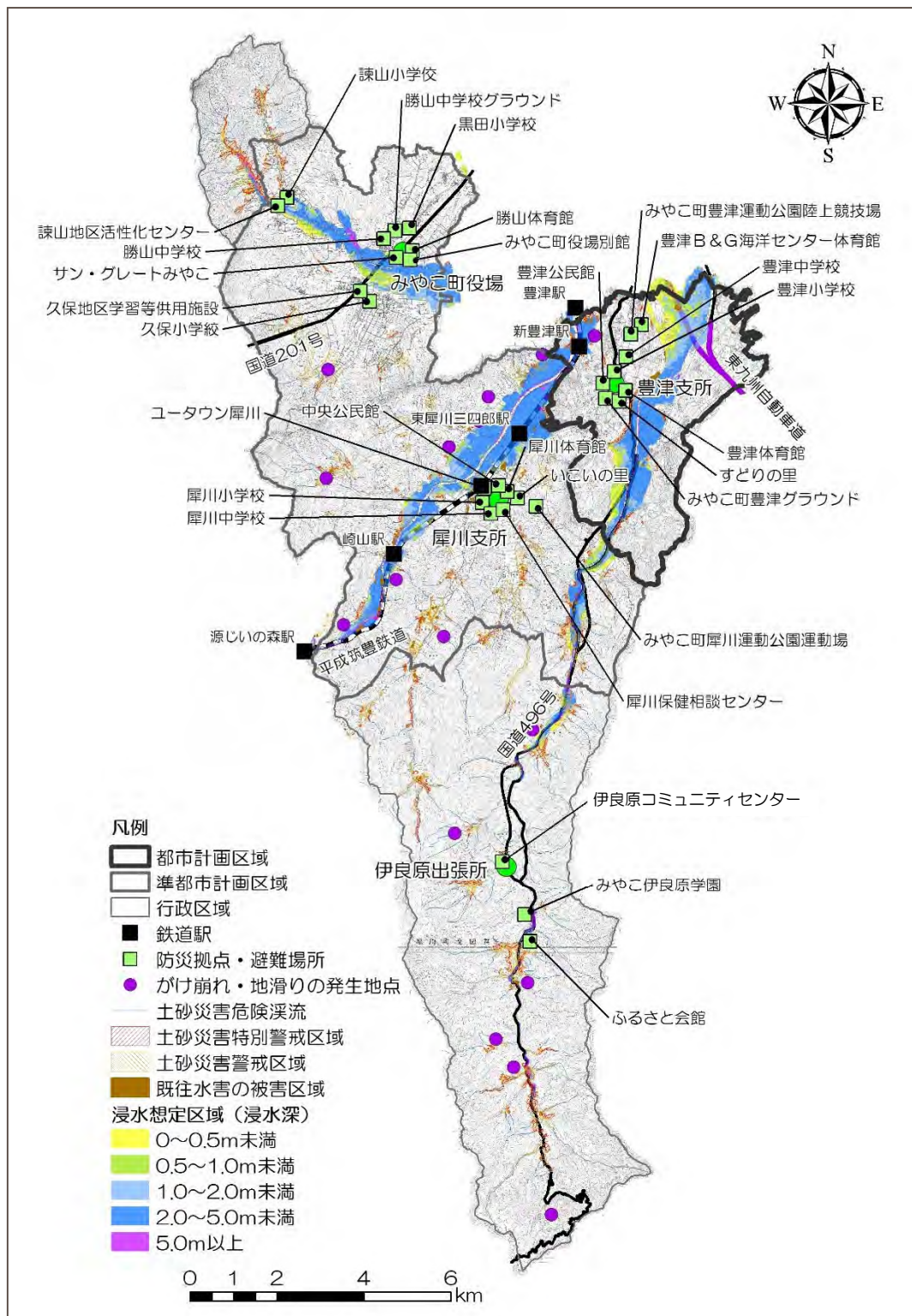


図 土砂災害危険個所の分布／資料：都市計画基礎調査、国土数値情報（国交省 HP）を基に町作成

9. 航空自衛隊築城基地

(1) 基地の概要

前述したように、豊津地域祓郷地区（皆見）に築城基地の一部（第7高射隊）が位置しています。そこから約1.5 km離れた場所に飛行場があります。

築城基地は、第8航空団等が配置されている航空自衛隊の基地です。飛行場の滑走路が西南西から東北東に向かって延び、一部が周防灘に突き出しています。滑走路の南端にはJR日豊本線、北端を音無川が走っています。

基地の正式な住所は築上町大字西八田ですが、基地の範囲は行橋市、築上町、そして本町の1市2町にまたがっています。

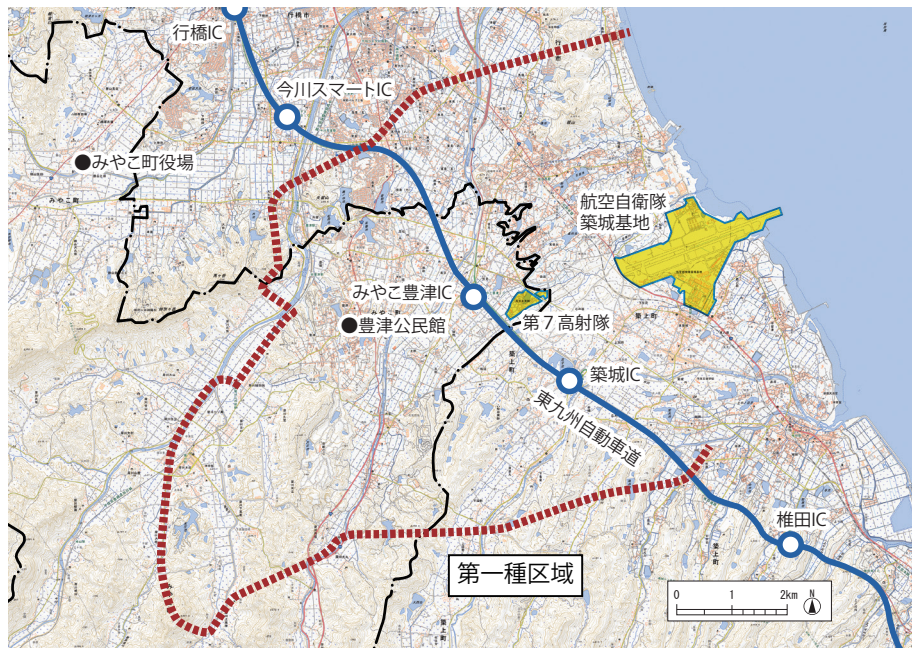


図 築城基地の位置／資料：地理院地図（国土地理院 HP）

(2) 航空制限

飛行場周辺は、航空機が安全に離着陸するため、航空法第49条第1項他により、定められた高さを超えて建造物、植物、その他物件を建築、栽培または留置することが制限されています。

豊津公民館とその周辺は航空制限の適用範囲にはなっていません。

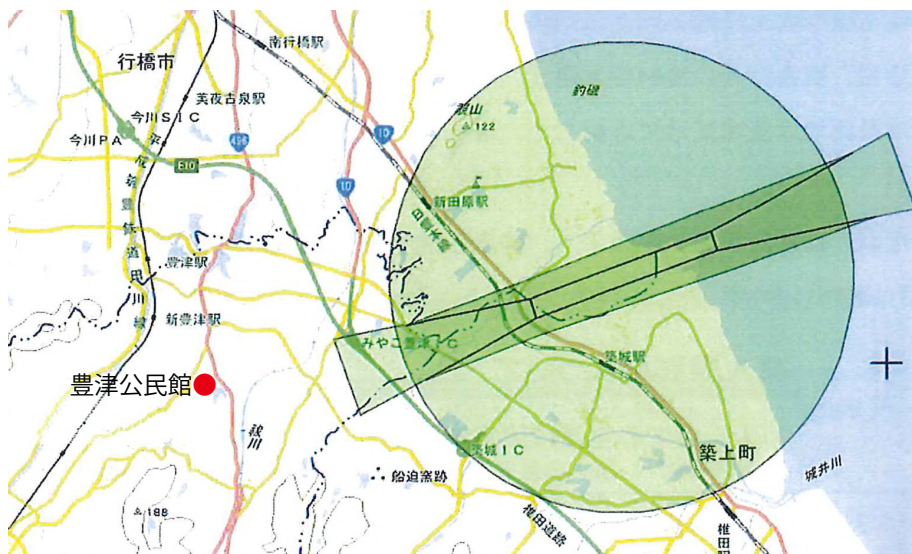


図 航空法の制限を受ける範囲／出典：みやこ町資料

(3) 航空自衛隊築城基地と周辺地域との交流

1) 築城基地見学

築城基地では、事前申し込みを踏まえ、航空自衛隊及び築城基地の活動などについて広く一般の皆様にご理解をいただけるよう、基地の一部の見学を実施しています。

見学場所は、航空参考館（資料館）、BOPS屋上（離発着見学）、厚生センター（売店）です。また、希望により、隊員と同じ食堂で同じ昼食を喫食することができます。

2) サマーフェスティバル in 築城

築城基地の一部が開放され、ステージイベントや野外壳店、打ち上げ花火などが行われます。

3) 築城基地 航空祭

例年、築城基地で秋から冬にかけて開催されています。所在する第8航空団のF-2戦闘機の機動飛行、模擬空対地射爆撃などが恒例となっています。

4) 各種イベントの開催

サマーフェスティバルや航空祭以外にも、中高生を対象とした青少年防衛講座、基地モニターの募集と研修の実施、西部航空音楽隊による演奏会の開催、つばさ少年剣道大会等が築城基地で開催され、基地の一部が解放されています。

5) 地域行事への参加

各地で開催されるイベント、行事に基地太鼓部やミニ儀じょう部隊などが参加しています。

行橋市の夏祭には、築城基地司令以下約80名の隊員がみこしの担ぎ手として参加しています。行橋子どもまつりでは、築城基地から管理隊警備小隊の軽装甲機動車展示を行い、広報ブースも開設し、航空自衛隊及び築城基地の紹介を行っています。

また、苅田町の避難所設営訓練に参加した実績もあります。本訓練は、福岡県と苅田町が共催で苅田町の防災体制をより一層強化するために行われたものです。築城基地からは、人命救助システム一式と軽装甲機動車の展示も行っています。

6) 災害派遣活動

豪雨に伴う被災地及び周辺地域に対して、給水支援、搜索活動等を実施しています。

7) 広報ラジオ ホットスクランブル

築城基地と地元京築地域の方とのコミュニケーションを図るため、広報ラジオ「ホットスクランブル」が放送されています。毎週金曜日、現役自衛官がパーソナリティとして登場し、令和2年（2020）6月で放送から10年目を迎えます。

8) 航空自衛隊築城基地のホームページ

航空自衛隊築城基地のホームページが開設され、基地や部隊の概要、広報・イベント情報、活動状況、戦闘機のギャラリー等が紹介されています。

(4) 航空自衛隊築城基地とみやこ町との交流

築城基地と本町との交流は、近年において、以下が挙げられます。

主な取り組みとして、消防団参加による防災訓練、子供たちとの交流、災害時の地元支援、住民の基地見学等が行われています。



みやこ町総合防災訓練【H26.3.8】

みやこ町消防団(団員総数614名)との救急訓練等



在日米軍の保育所訪問【H27.8.28】

豊津保育所(海兵隊11名訪問)



断水による給水車派遣【H28.1.27】

豪雪による断水時(町から要請)



地元小学生との神輿活動(第7高射隊)

皆見地区子供会



オリンピック事前キャンプ合同練習
【H30.10.3】

築城基地陸上部とONOC選手(みやこ町キャンプ誘致)



地元基地対策委員会による基地見学(第7高射隊)
【H30.10.31】

第2章 上位関連計画との関係性

1. 第2次みやこ町総合計画

第2次みやこ町総合計画は、町のまちづくり理念及び将来像を示すものであり、各種計画の最上位計画としてまちづくりを支える総合的な行政運営の基本方針を示しています。

(1) 計画期間

平成28年度から令和2年度までの5年間

(2) 将来像

本町の人と自然が輝き続けるために、住民をはじめ、企業、NPO等の組織・団体も含めて、お互いに連携し、まちづくりを進めていくことを目指し、将来像には「わたしたちが未来を創り 人と自然が輝きつづける みやこ町」を掲げています。

(3) 本構想との関係性

1) 将来像を実現するための基本目標「夢をもち、心豊かな人を育てるまちづくり」関連

政策「生涯学習の推進と地域文化の継承を図る」の下にある政策項目「生涯学習環境の充実を図る」の展開において、以下に挙げる主要事業等を位置づけています。

- 公民館活動の活性化と地域住民の学習活動への参画を推進する。
- 生涯学習に関する情報提供の充実を図る。
- 社会教育団体などへの支援と活動の活性化を図る。
- 社会教育施設の適正配置と老朽化に伴う施設整備のあり方について見直しを進める。

2) 将来像を実現するための基本目標「元気で安心して生活できるまちづくり」関連

政策「生活の安全・安心を確保する」の下にある政策項目「消防・防災・防犯体制の充実を図る」の展開において、以下に挙げる主要事業等を位置づけています。

- 地域防災計画を定期的に見直すとともに、避難行動要支援者対策の充実を図る。
- 災害時の共助の要となる自主防災組織の育成、持続的な活動を支援する。

2. 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略

第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略は、人口減少への対応と地方創生の推進を行い、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確保することで、地方への新たな人の流れを生み出し、その好循環を支える「まち」を活性化させる事業の推進を図ることを目的に平成28年（2016）3月に策定した「みやこ町まち・ひと・しごと創生総合戦略（「第1期総合戦略」という。）を令和2年（2020）3月に見直し、策定したものです。

本町では、第2期総合戦略の下、引き続き、時代にあったまちづくりと「まち」「ひと」「しごと」の好循環の確立に向けた取り組みを推進しています。

（1）計画期間

令和2年度～令和6年度までの5年間

（2）本構想との関係性

1) 基本目標4「安全で安心感のある、これからの時代に対応した持続可能なまちづくり」 関連

基本的方向「安全に暮らせる体制を推進する」の防災・減災体制の整備において、以下に挙げる主要事業等を位置づけています。

- 消防・防災設備を整備する。
- 災害に強い基盤整備を推進する。

基本的方向「これからの時代に対応した持続可能なまちづくりを推進する」において、以下に挙げる主要事業等を位置づけています。

- 持続可能な公共サービスを維持するため、経営視点に立った行財政改革に取り組む。
- 地域特性に合った分野において、未来技術の活用を積極的に検討する。
- 施設整備・運営、行政サービス等において、民間活力の導入を推進する。
- 年齢・性別・国籍・障がい等にかかわらずだれもが交流できる地域共生型による多世代交流の場づくり等を行う。

基本的方向「住民の主体的なまちづくり活動の活性化を図る」のまちづくり活動への支援において、以下に挙げる主要事業等を位置づけています。

- 地域自治組織・NPO・ボランティア団体等の住民活動団体が自ら企画し、実施する公益性のあるまちづくり活動を促進する。

3. みやこ町都市計画マスタープラン

みやこ町都市計画マスタープランは、長期的な視点から、みやこ町らしい「まちづくり」の将来像を明確にし、実現に向けて適切・効果的に進めていくために、期間や取り組みを計画として示していくことを目的に策定したものです。

本計画では、町内の都市計画区域の指定状況を踏まえつつ、「協働」による全町的なまちづくりに取り組んでいくことから、町全域を対象としています。

(1) 目標年次

まちづくりには長い時間がかかることから、本計画では長期的な「継続性」や「安定性」を要するため、概ね 20 年後のまちを描くものとし、目標年次を令和 20 年（2038）としています。

(2) 将来像

本計画では、「生活（暮らし）」、「産業（雇用）」、「観光（交流）」に関する課題に対応し、総合計画の5つの基本目標のうち、主に「自然と共生し、快適で住みよいまちづくり」、「産業と交流が盛んな活力あるまちづくり」を達成するため、将来像を「豊かな自然・歴史・風土が育む“みやこびと”が躍動するまち」と設定しています。

(3) 本構想との関係性

1) 都市機能集約拠点（歴史・文化・教育機能）

まちづくりの基本方針を踏まえ、将来像を実現するための将来都市構造を設定しています。

この将来都市構造において、豊津地域については、都市機能集約拠点（歴史・文化・教育機能）、町内連携軸、まちなか居住ゾーンを位置づけています。

【都市機能集約拠点（歴史・文化・教育機能）】

- 観光交流の玄関口として全町的な観光交流を促進する機能を集約し、本町の魅力の発信と交流を支援する拠点
- 歴史・文化・教育に係る生活サービス機能の維持・強化を図る拠点

【町内連携軸】

- 全町が一体として都市機能を提供する都市基盤とするため、3つの都市機能集約拠点及び集落生活拠点を結ぶ軸

【まちなか居住ゾーン】

- 今後の住み替えや分家、転入者の居住地選定の際に誘導を図り、一定の密度を有したまとまりある市街地環境の形成により、商業・文化・公共公益施設等の一定の都市機能の集積と、まちなか居住の促進を図るゾーン

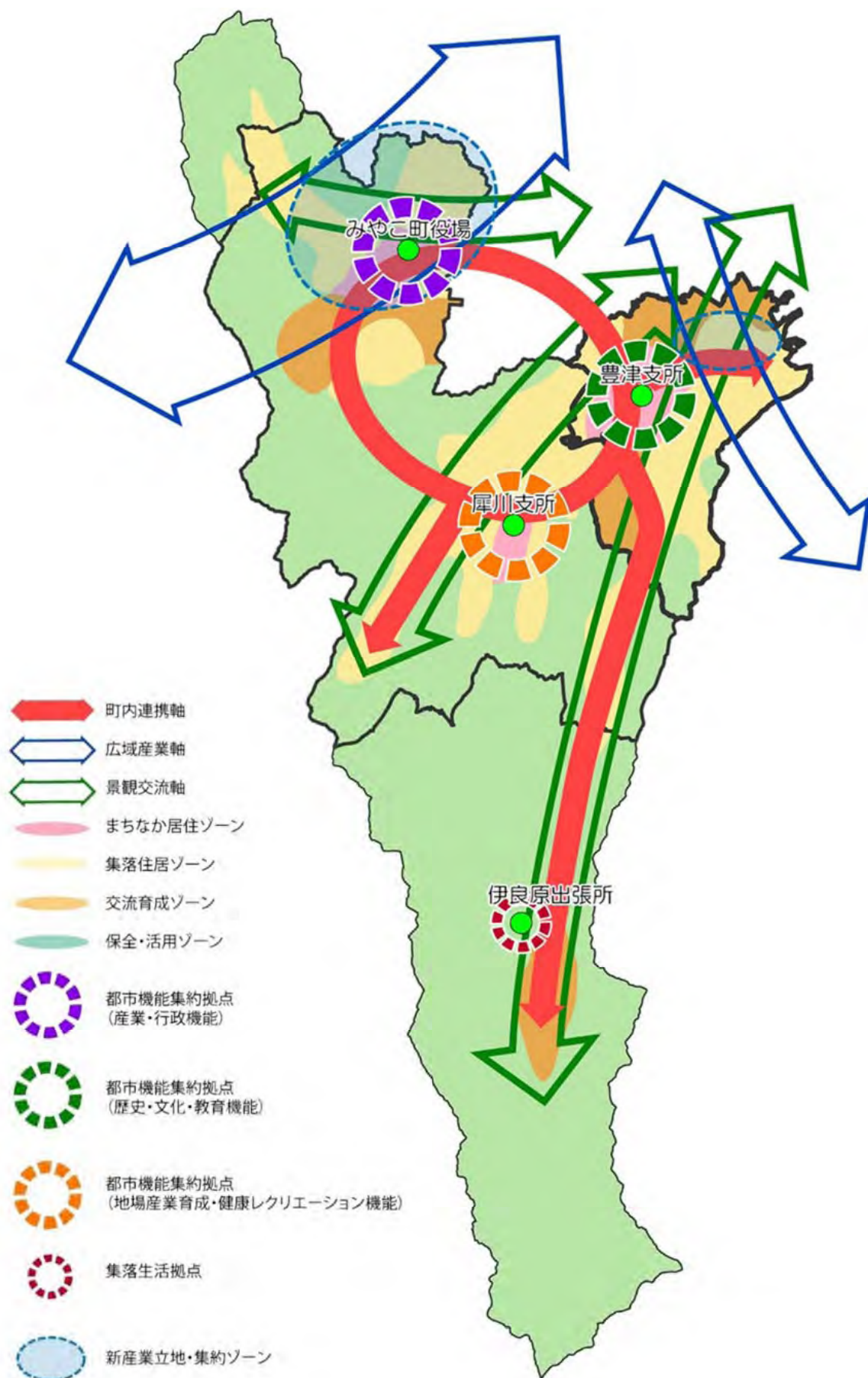


図 将来都市構造／出典：みやこ町都市計画マスタープラン

2) 都市施設の整備方針 –公共施設・機能の集約配置と連携した拠点の整備–

「みやこ町公共施設等総合管理計画」と連携し、都市機能の集約・再配置を踏まえた効率的な拠点の形成、土地利用の推進に努めます。

3地域に集約される集会所施設（豊津公民館等）を地域コミュニティの拠点として活用し、周辺都市機能の集約を図ります。

3) 豊津地域の将来像

豊津地域は、歴史民俗博物館や国府跡公園などの歴史・文化資源に加えて、町内唯一の高等学校が位置することや、中央図書館があることなどから教育機能が集まるところとなっています。また、みやこ豊津ICが本町の玄関口としての役割も担っており、観光面や産業面から土地活用の可能性が高く、隣接する行橋市との往来も容易で、町内で最も都市機能が集約しています。

都市計画マスタープランでは、上記を踏まえ、豊津地域の将来像に「古（いにしえ）の、歴史と文化をつなぐまち」を設定しています。

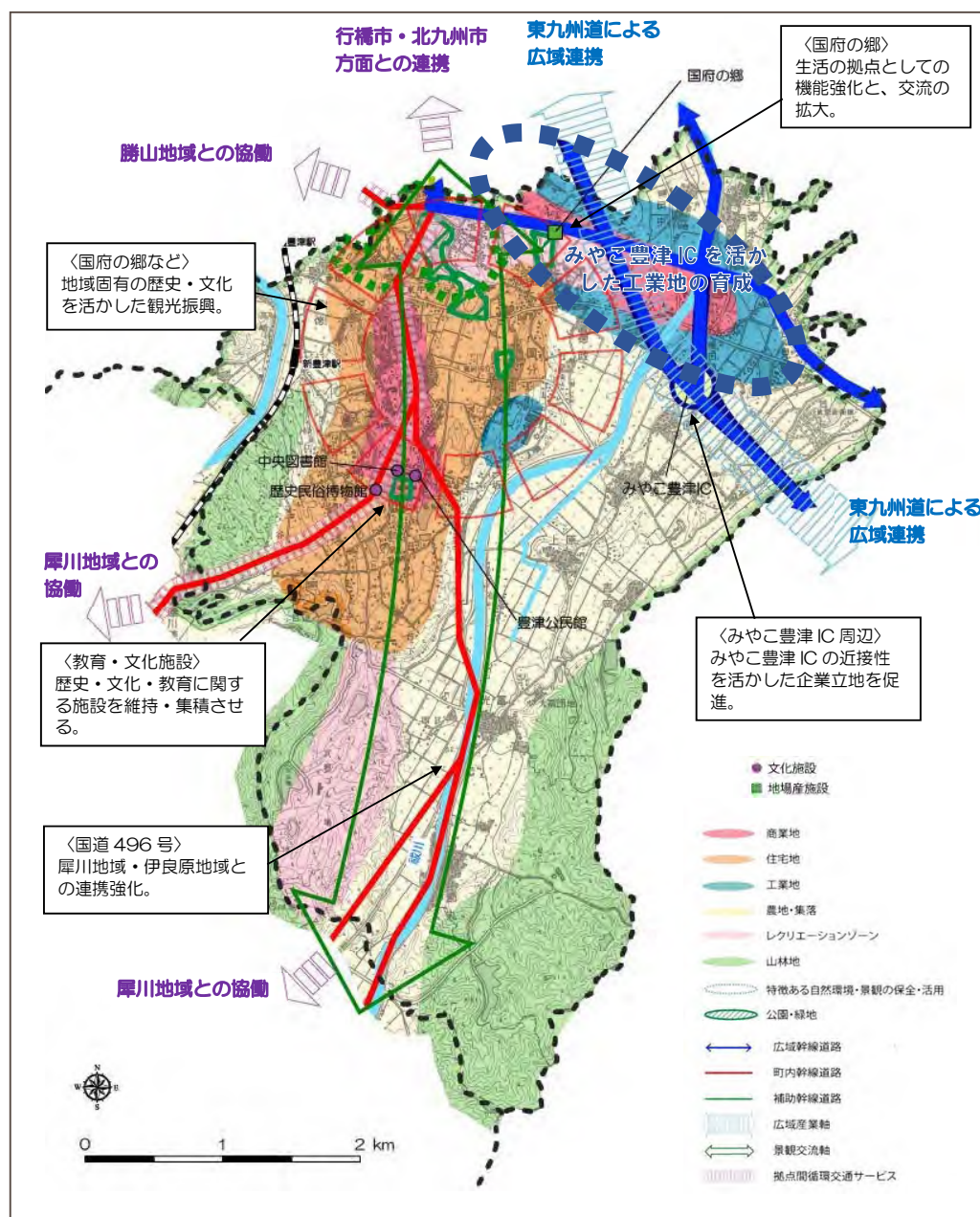


図 豊津地域のまちづくり方針

4. みやこ町公共施設等総合管理計画とみやこ町公共施設再配置計画

みやこ町公共施設等総合管理計画は、本町が保有する公共施設等について、適切な規模のあり方および効率的・効果的な維持管理運営等の基本的な方向性を示すとともに、財政負担の軽減化・平準化を図り、真に必要な公共サービスを持続可能なものにするために策定したものです。

みやこ町公共施設再配置計画は、みやこ町公共施設等総合管理計画の中で重点プランに位置づけた施設を対象施設とし、質、量、コストの3つの観点から公共施設再配置計画を定めています。

(1) 計画期間

みやこ町公共施設等総合管理計画：平成29年度～令和38年度の40年間

(2) 本構想との関係性

豊津公民館とその周辺に所在する公共施設の再配置計画を以下に整理します。

表 豊津公民館とその周辺に所在する公共施設の再配置計画の概要

施設	再配置計画
豊津公民館	・利用状況が高いため現施設を現状維持とし、建築後45年以上が経過しているため、長寿命化または建替えを検討する。
学習等供用施設	・祓郷地区と節丸地区等の学習等供用施設を豊津公民館に集約する。
豊津支所	・現行の業務内容を豊津公民館に移転する。建物は解体し、解体後の敷地は公共施設の建替地として検討する。
歴史民俗博物館	・現状維持とし、予防保全型の維持管理を進める。
豊津体育館	・廃止し、当面はみやこ町豊津B＆G海洋センターの体育館の予防保全を行う。将来的な町内1箇所への集約については、改めて検討する。
豊津小学校	・豊津地域内の3小学校（豊津・節丸・祓郷小学校）を豊津小学校内に統合する。
豊津保育所	・久保保育所とともに、公立保育園として残す1園の維持も含め、民営化について検討する。
豊津隣保館	・計画的な予防保全を行うことにより、長寿命化を推進する。

5. みやこ町地域防災計画

本計画は、災害対策基本法（昭和 36 年法律第 223 号）第 42 条及びみやこ町防災会議条例（平成 18 年条例第 15 号）第 2 条の規定に基づき、みやこ町防災会議が作成する計画です。

本計画は、町、国、県、関係機関、公共的団体及び住民が、その有する全機能を発揮し、町域における防災に関し、災害予防、災害応急対策及び災害復旧・復興対策に至る一連の防災活動を適切に実施することにより、住民の生命、身体及び財産を災害から保護するとともに被害を軽減し、もって社会秩序の維持と公共の福祉の確保に資することを目的とします。

（１）計画の修正

本計画は、災害対策基本法第 42 条の規定に基づき、本町の地域構造の変化及び災害応急対策の効果等を検証し、必要があると認めるときは、これをみやこ町防災会議において修正します。

（２）防災ビジョン

過去の災害の教訓を踏まえ、「安全で安心して暮らせる防災・減災まちづくり」を理念とし、住民・行政・関係機関・団体等がそれぞれの役割を自覚し、互いの連携を基本として、力を結集して災害に強いみやこ町を創りあげるため、4つの基本方針を掲げています。

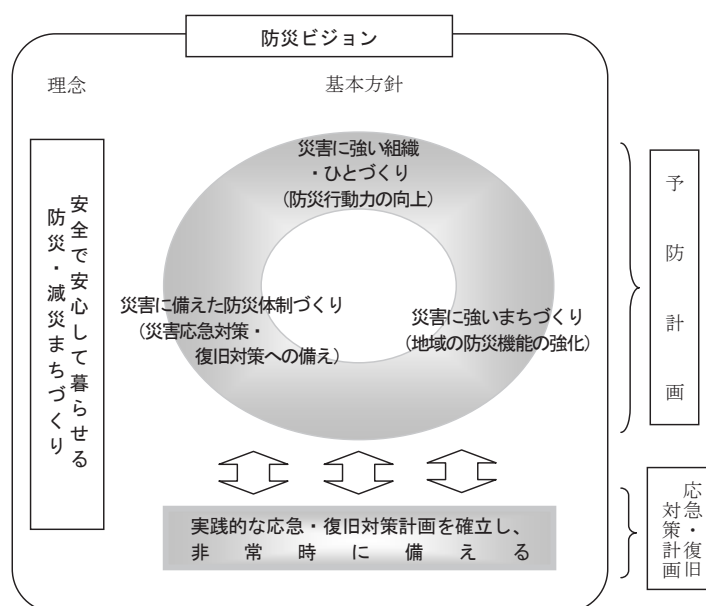


図 防災ビジョン／出典：第2次みやこ町総合計画

（３）本構想との関係性

1) 災害時の避難場所

災害時の避難場所として、犀川地域 11 施設、勝山地域 10 施設、豊津地域 8 施設、計 29 施設を位置付けています。豊津公民館は、耐震性が低いため、地震の避難場所としていません。

表 豊津地域における避難場所／出典：みやこ町地域防災計画

施設	地震時	風水害時
豊津体育館	○	○
みやこ町豊津福祉センター「すどりの里」	○	○
豊津公民館	×	○
豊津 B & G 海洋センター体育館	○	○
豊津小学校	○	○
豊津中学校	×	○
みやこ町豊津運動公園陸上競技場	△	×
みやこ町豊津グラウンド	△	×

6. 京築広域景観計画

京築広域景観計画は、京築地域全体を一つのまとまりとして大きく捉え、市町界を越えて存在する広域的な景観特性を反映した計画であり、福岡県が策定主体です。

本町は、平成 21 年(2009)に京築地域の景観像と景観形成の方向性を示した「京築広域景観基本方針」の策定や平成 22 年(2010)の広域景観テーマ協定の締結にも加わり、現在、京築広域景観計画の推進に取り組んでいます。

(1) 対象区域

本計画の対象区域は、みやこ町、そして行橋市、豊前市、苅田町、吉富町、上毛町、築上町の区域です。(景観法に基づく事項については景観行政団体である行橋市、豊前市を除く。)

(2) 目指すべき景観像

本計画では、目指すべき景観像をイラストで示すとともに、“豊姫の国”の景観を未来へ引き継いでいくことを目指し、「みち文化と清流文化の連帯が奏でる“豊姫の国”の景観」を目指すべきテーマに設定しています。

<目指すべき景観像>



<テーマ>

みち文化と清流文化の連帯が奏でる
“豊姫の国”の景観

図 目指すべき景観像とテーマ／出典：京築広域景観計画

(3) 本構想との関係性

豊津公民館が位置する一帯は、住宅・商業市街地の景域に位置し、景観形成基準と環境色彩基準が定められています。

環境色彩基準の基本的な考え方は、原色の色彩や高彩度の色彩は避け、川辺や樹木の緑、土や石などの自然の色と馴染みやすい色彩を基本とすることです。なお、群としての統一感のある地域では、その統一感の中で行われる個性創出のための色彩表現（アクセントカラー）が認められています。

表 景観形成基準／出典：京築広域景観計画

住宅・商業市街地の景域			景観形成基準
建築物・工作物	配置		・周囲との連続性に配慮した配置に努める。
	形態・意匠・色彩	周辺との調和	・住居系市街地では、周囲のまちなみから突出する奇抜なものは避ける。 ・商業系市街地では、周辺の建物との連続性や、歩道や街路樹などの歩行空間と調和した形態・意匠に配慮する。
		圧迫感の軽減	・大規模な建築物等では、長大な壁面になることは避け、分節化するなど、周囲に与える圧迫感の軽減に努めた形態とする。
		設備類	・建築設備類を設置する場合は、建築物等の裏側へ配線するなど、道路等の公共の場から容易に目にする位置には設置しない。やむを得ず設置する場合は、目隠し等による措置を行い、周囲の景観に影響を与えないよう配慮する。
		色彩	・周囲の景観に調和する色彩とし、環境色彩基準に適合させる。 ・色彩を組み合わせる場合には、統一感のある配色に配慮する。
	外構・緑化等		・道路との境界部に垣・さく等を設置する際にはブロック塀は避け、開放性のあるものとし、できる限り生け垣や緑化フェンスに努める。垣・さく等を設置しない場合には、道路境界部に、できるだけ多くの樹木や花壇による植栽を施す。

表 環境色彩基準【建築物】／出典：京築広域景観計画 ※日本工業規格（JIS）に採用されているマンセル表色系による。

景域	部位	色相	明度	彩度
住宅・商業市街地、工業市街地	外壁基調色	有彩色	—	6.0以下
		無彩色	—	—
	屋根	有彩色	—	4.0以下
		無彩色	—	—

※外壁各面の4／5は、基調色の基準に適合した色彩とする。

表 環境色彩基準【工作物】／出典：京築広域景観計画 ※日本工業規格（JIS）に採用されているマンセル表色系による。

景域	色相	明度	彩度
田園と海、住宅・商業市街地、工業市街地	全て	—	4.0以下

第3章 住民意向の把握

住民意向を反映した構想とするために、アンケートやヒアリングなどを行いました。

なお、今回の調査は感染症の拡大防止の観点から、密閉、密集、密接を避け、以下のように実施しました。

詳細な結果は参考資料に掲載しています。

1. 調査の概要

(1) 住民アンケート

実施期間：令和2年（2020）7月1日（水）から7月15日（水）

調査対象：18歳以上の豊津地域在住の方 2,499人

調査方法：郵送によるアンケートの配布・回収

回収状況：927件回収 回収率 37%

調査内容：築城基地や自衛隊の取り組み、防災機能の強化、町のにぎわいや活力の創出に向けた交流の場について、認知度や現状への課題、今後必要と思うこと等を把握

(2) 代表者ヒアリング

実施期間：令和2年（2020）8月4日（火）

調査対象：地元代表3人及び公民館館長

調査方法：現地視察と意見交換

調査内容：防災機能の強化、町のにぎわいや活力の創出に向けた交流の場について、現在の豊津公民館を参考とし、整備の課題や方向性などを確認、検討

(3) オープンハウスワークショップ

実施期間：令和2年（2020）8月5日（水）から8月7日（金）

来場者：44名（3日間合計）

調査方法：豊津公民館エントランスホールにおいて、ポスター展示及び解説

調査内容：防災機能の強化、町のにぎわいや活力の創出に向けた交流の場について、現在の豊津公民館の課題や新たな施設に期待する機能、意見などを把握



代表者ヒアリングでの現地視察



オープンハウスワークショップ

2. 調査結果

●現在の豊津公民館と新たな施設について

- ・施設の利用者からは、全体として、現状の規模に満足している様子がうかがえました。
- ・トイレやバリアフリーの整備が課題として多く挙げられました。
- ・町のにぎわいや活力を創出する新たな施設には、既存の公民館等にあるようなホール、会議室のほか、カフェやレストラン、行政サービスの窓口、運動スペース、屋外広場といった新たな機能についても期待があることがわかりました。
- ・周辺施設との調和や連携を図りながら、多くの人が立ち寄り、利用しやすい施設となることを期待する声が多数把握できました。
- ・新たな施設の維持管理が負担にならないよう懸念する意見もありました。

●町の防災について

- ・新たなコミュニティ拠点施設には避難所機能を主体におき、災害用、非常用の設備の整備を期待する意見が確認できました。
- ・避難所の認知度は全体で70%程度であり、特に若い世代で比較的認定度が低い傾向がわかりました。
- ・避難所には、プライバシーの確保、非常用電源や貯水槽などの資源の確保、乳幼児・高齢者・障がい者などへの特別の配慮、暑さ寒さ対策等に特に配慮することが期待されているとわかりました。

●交流に関する住民の活動について

- ・多数のサークルが定期的に公民館を利用していることが確認できました。
- ・音楽会や国際交流会などのイベント開催を期待する声が多数あることがわかりました。
- ・本町に築城基地が隣接することについて、多くの人が騒音が気になると感じていることが確認されました。一方、災害時の救助の安心感や自衛隊を身近に感じられるといったプラスイメージを持っている人はいずれも2割から3割程度に留まっていることがわかりました。
- ・築城基地や自衛隊がおこなっている航空祭などのイベントについては認知度が高く、参加したことがある人も多いことが確認されました。
- ・築城基地や自衛隊との交流に関しておこなったことがある取り組みについて「特になし」と回答した人も多いことがわかりました。

第4章 まちづくりの課題

みやこ町・豊津地域の概要、上位関連計画との関係性、および住民意向等を踏まえ、序章1の「(2) 本構想の目的」に掲げたコミュニティ拠点施設の整備に向けた課題を以下に整理します。

1. 公共施設の再配置と利用促進

本町は、厳しい町財政を踏まえ、第2次みやこ町総合計画の下、みやこ町公共施設等総合管理計画とみやこ町公共施設再配置計画を策定し、豊津公民館や豊津支所を含め、公共施設の統廃合や再配置などに取り組んでいます。

コミュニティ拠点施設の整備にあたっては、将来的な町財政の圧迫を避けるためにも、上位関連計画との整合を図り、公共施設の廃止、複合化、再配置、そして利用促進等に取り組んでいくことが求められます。

2. 住民の豊かな交流を育む機能導入

本町は、町のにぎわいや活力の創出と防災機能の強化に向けて、コミュニティ拠点施設の整備を目的とし、本構想の策定に取り組んでいます。既存施設を統廃合し、利用促進等を行うだけで当該の目的は達成できないと考えられます。

本構想に掲げる目的を達するにあたっては、町のことを知りたい、住民とともに活動したいといった住民、そして来訪者が集まり、交流が育まれるような機能導入が求められます。

3. 避難所の機能強化

近年、各地で災害が多発しており、本町においても記録的大雨などの発生が懸念されます。いざというときに速やかに避難できるようにするために、日ごろから住民が利用するコミュニティ拠点施設を避難所としてわかりやすく整備することが期待されます。

現在の豊津公民館は高台にあり、風水害時の避難所に指定されていますが、耐震性が不足しているため、地震時の避難所としては利用できません。

他方、防災や災害時対応を考えるうえで、防災活動、避難訓練、災害時における避難生活の支援等、避難所と自衛隊は関係するところも多くあります。築城基地にも近い豊津公民館の位置をいかすことで、よりよい防災上の拠点となることが期待されます。

コミュニティ拠点施設は、災害時に住民が利用しやすい避難所として、機能を強化する整備が必要です。

4. 災害における必要な物資などの備蓄

近年、地震や風水害などの災害が頻発化しているだけでなく、甚大化している傾向があります。これに伴い、断水や停電、長期の避難生活にも対応できるよう備えておくことが、ますます重要となっています。

平成 25 年（2013）6 月の災害対策基本法の改正を受けて策定された「避難所における良好な生活環境の確保に向けた取組指針」（平成 25 年 8 月 内閣府（防災担当））では、避難所として指定される施設においては、食料、飲料水その他生活必需品等の備蓄や生活用水の確保を予め検討しておくよう示されています。

しかし、現在、避難所となっている豊津公民館では、避難生活に必要な水、電気、ガスなどの資源や食料、飲料その他生活必需品等の物資の確保が十分ではありません。

不測事態を想定し、住民の避難生活の負担を軽減することに配慮し、速やかに資源や物資の供給が行えるよう、災害時に必要な資源の確保や物資の備蓄ができる施設の整備が求められます。

5. 交流に関する住民の活動促進

豊津公民館では様々なサークル活動や地域の行事が行われてきました。これらの住民の活動を継続しながら、将来に向けて、より一層幅広い人々が参加できる交流を促進していくことが求められます。

本町では、築城基地の自衛隊と連携したイベント開催や防災訓練など、築城基地と交流してきた実績があります。築城基地と隣接している本町では、災害時などに自衛隊との円滑な連携が図られるよう、日ごろから自衛隊と住民との相互理解を深めることも求められます。

今後は、町のにぎわいや活力の創出と防災機能の強化に向けて、住民同士や来訪者、自衛隊などとの更なる交流機会の充実が求められます。

第5章 基本構想

1. 基本理念

町のにぎわいや活力を創出する拠点となり、災害時には町の防災拠点としての役割を果たすなど、誰もが生活スタイルに合わせて気軽に利用できるコミュニティ拠点施設の整備を目指します。

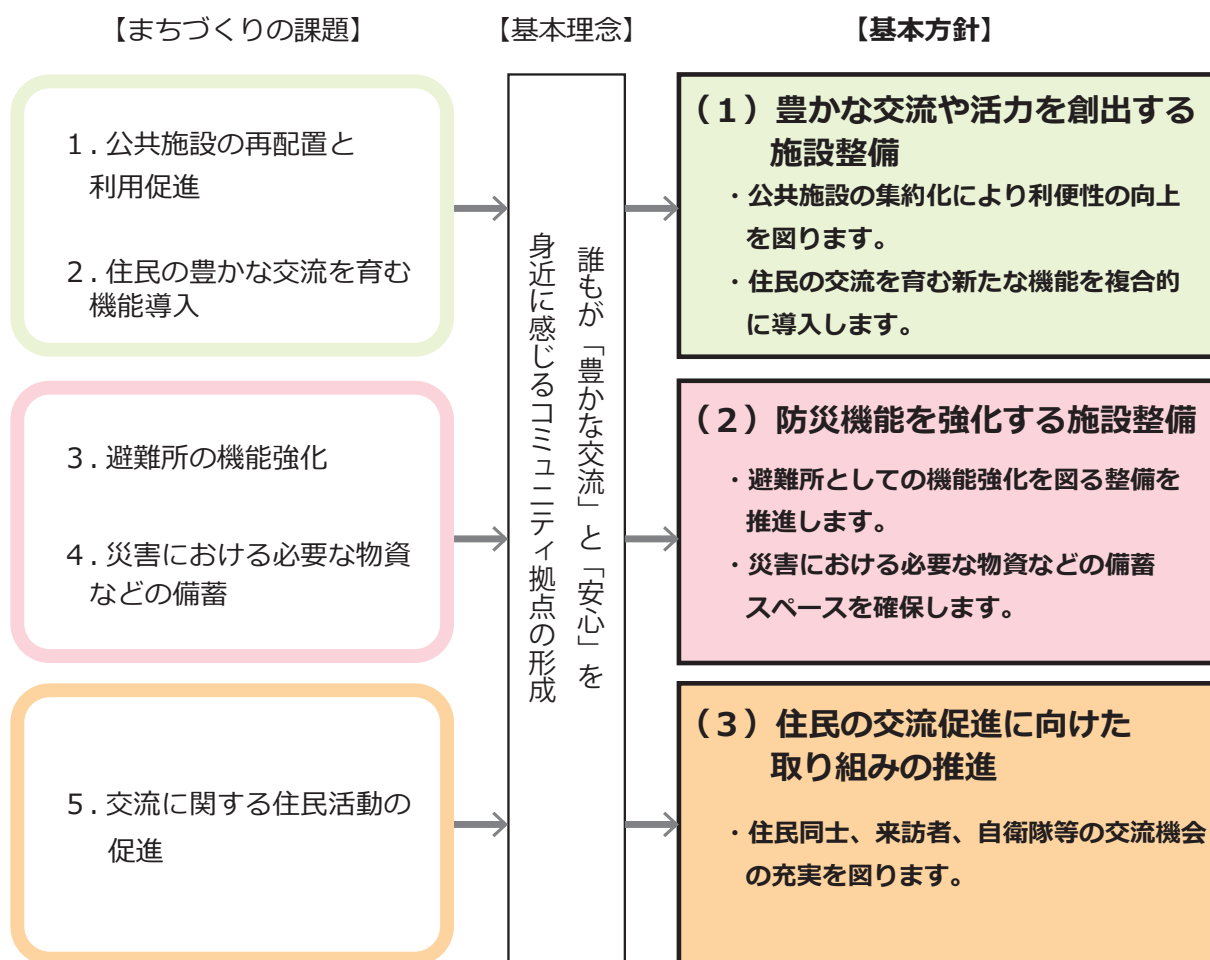
整備にあたっては、みやこ町公共施設再配置計画等を踏まえ、豊津公民館や豊津支所などの機能の集約化を前提とします。また、誰もが利用しやすいように配慮したユニバーサルデザインを取り入れるとともに、長期的に使い続けられるよう維持管理や運営面にも考慮して取り組んでいきます。

以上を踏まえ、基本理念を以下に示します。

誰もが「豊かな交流」と「安心」を
身近に感じるコミュニティ拠点の形成

2. 基本方針

5つのまちづくりの課題を解決するために、上記の基本理念を踏まえ、基本方針を以下のとおり設定します。



3. 整備方針

(1) 豊かな交流や活力を創出する施設整備

豊津公民館、学習等供用施設等の既存施設の機能の集約化やアンケート及びワークショップ等の住民意見を踏まえ、交流機能として、求められる機能を設定します。

交流機能には、住民の利用しやすさを考慮して、様々な利用方法に対応できる多目的ホール、会議室、キッズコーナー、料理実習室、休憩コーナー、多目的スペースの配置を検討します。

また、既存の豊津支所の機能を踏まえ、支所機能として、受付窓口や事務室などを維持しつつ、会議室等は交流機能の内容との調整を図りながら検討します。

表 機能導入の方向と内容

方向性	内容(案)	利用例
○交流機能	多目的ホール	・様々なシンポジウム ・国際交流、世代間交流、自衛隊交流等のイベント ・音楽サークルやアーティスト、自衛隊音楽隊などの音楽発表会 ・住民ギャラリーとしてサークル活動や自衛隊活動などの作品展示 ・健康増進の体操やダンススクール、運動系サークル 等
	会議室	・様々な講習会、勉強会、セミナー ・様々な人数の団体の会合 ・書道、絵画、絵はがき、俳句、裁縫等の文化系サークル ・落ち着いた自習学習 等
	キッズコーナー	・絵本や遊具を用いたこどもの遊び ・プライバシーに配慮された授乳 ・子育て支援に関する情報展示 等
	料理実習室	・蕎麦打ちの会や自衛隊員による料理教室 ・地域の祭りの準備 等
	休憩コーナー	・カフェや自販機などによる飲料の提供 ・リラックスできる談話 ・清潔で使いやすいトイレ 等
	多目的スペース	・日用品や金融機関などのショップ ・アクセスしやすさに配慮した自動車、バス、大型トラックの駐車場 ・周辺と調和した芝生広場や展望台 ・フリー Wi-Fi などの ICT 設備 等
○支所機能	受付窓口	・ワンストップで利用しやすい行政窓口 ・様々な情報が得られる資料等の設置、展示 等
	事務室	・職員の執務、会議 等

※アンケートやワークショップなどにより得られた住民意見を踏まえ、内容(案)や利用例を記載

（２）防災機能を強化する施設整備

避難所としての機能強化を図るため、平時においては、交流機能や支所機能として用いられるスペースの災害時の仮設的な利用を想定した整備に取り組みます。また、災害時に備えた備蓄機能の整備に取り組みます。

交流機能・支所機能の災害時の利用としては、プライバシーの確保や乳幼児、高齢者、障がい者などへの特別な配慮を可能とする長期避難生活に対応できる整備を行います。

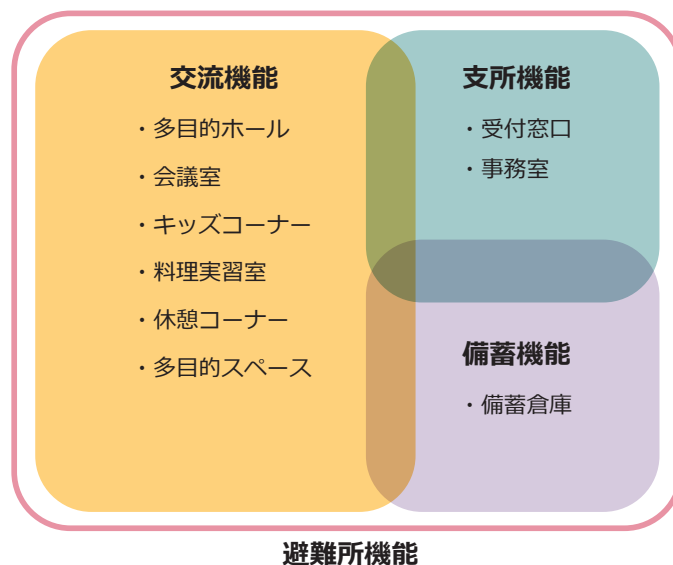
災害時に必要な物資や資源の確保を行うため、備蓄機能には、搬出入動線を考慮したうえで十分な備蓄倉庫を確保します。

表 機能導入の方向と内容

方向性		内容（案）	利用例
○避難所機能	（○交流機能・支所機能の災害時利用）	多目的ホール 会議室 キッズコーナー 料理実習室 休憩コーナー 多目的スペース 受付窓口 事務室	・快適でプライバシーに配慮した避難者の居住 ・医療や介護が必要な方のケア ・炊き出しや飲食の提供 ・心身の健康を保つ喫茶や談話、学習 ・災害に関する相談窓口、情報提供 ・災害対応に関する情報収集、会議 ・ボランティアの準備、控室 ・入浴、洗濯等のスペースの仮設 ・マンホールトイレ 等
	○備蓄機能	備蓄倉庫	・災害用物資の備蓄、受け渡し ・非常用電源や貯水槽など資源の確保 等

※アンケートやワークショップなどにより得られた住民意見を踏まえ、内容（案）や利用例を記載

参考）施設の導入機能と施設構成イメージ



（３）住民の交流促進に向けた取り組みの推進

住民同士や来訪者、自衛隊等の交流機会の充実を図るため、幅広い利用促進、快適な維持管理、情報発信に取り組みます。

利用促進では、これまでの豊津公民館だけでなく、学習等供用施設など、集約が予定される施設で実施されていたサークル活動や地域の行事を引き継いで取り組みます。加えて、知的好奇心を刺激する講座や勉強会、地域の PR イベント、築城基地との交流イベントなど、新たに楽しめる企画の実施に取り組みます。また、防災拠点として、自衛隊との連携を図りながら、避難訓練や防災勉強会などの防災訓練の実施等に取り組みます。

維持管理としては、地域と連携した周辺の清掃活動や、利用者への片付け、清掃の呼びかけ、災害用備蓄品の定期的な点検などにより、常に快適な空間を維持できるよう取り組みます。

情報発信としては、多くの人が関心をもてるよう、町のホームページ等を活用して取り組みます。

表 取り組みの方向と案

方向性	取り組み（案）
○利用促進	・住民のサークル活動として、日常的な利用や成果発表 ・地域の祭事の準備や実施 ・新たな楽しめる地域の企画の実施（勉強会、地域の PR イベント等） ・築城基地との交流イベントの実施（ビデオ上映会、スポーツイベント、講習会、婚活イベント、筋肉のつけ方指導、料理教室、家族交流会、音楽会等） ・地域や築城基地に関する資料や作品の定期的な展示 ・防災訓練の実施（避難訓練、防災勉強会等）
○維持管理	・良好な周辺環境を維持しながら、施設への理解にもつながるよう、地域と連携した施設周辺の清掃活動の実施 ・誰もが気持ちよく施設を利用できるよう、施設利用者への片付け、清掃の呼びかけ ・万が一に備え、災害用の備蓄品の定期的な点検
○情報発信	・町のホームページや SNS などでの施設に関する情報発信 ・情報は随時更新することで、最新のものを発信 ・多くの人に関心をもってもらえるよう、施設の概要だけでなく、施設で行った活動についても、積極的に情報発信

※アンケートや関係者へのヒアリングなどにより得られた意見を踏まえ、取り組み（案）を記載

第6章 今後の進め方

国との協議を踏まえ補助事業の導入を調整しつつ、令和7年度の完成を目指し、基本計画、実施計画、実施設計、建築工事の推進に取り組めます。

また、事業の推進にあたっては、必要に応じて住民意見の把握と計画等への反映に努めます。

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
基本構想							
		・理念、基本方針、実施方針を設定し、整備イメージと今後の進め方を設定する。					
基本計画							
		・基本構想、関連計画や法規制の整理などを踏まえ、施設構成や配置、外観イメージ・デザインなどを検討する。					
実施計画							
			・施設の活用計画や管理運営計画、外観イメージ・デザインを設定し、概略設計を行い概算事業費を算出する。				
実施設計							
			 工事に向けた 国協議		・概略設計をもとに、実施図面の作成、数量計算、工事費の算出等行う。		
建築工事							
					・事業規模が大きいため、 工事期間を2か年を予定		

参考資料

1. 策定のプロセス

(1) 策定までのプロセス

本構想は以下のプロセスで策定しました。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、適宜、対面での会議だけでなく、書面での開催という形式を採用しました。

実施日	会議等の名称	主な協議内容
7月 1日（送付） 15日（回収）	住民アンケート	・築城基地や自衛隊への取り組みの理解 ・避難所、交流の場に必要と思うこと など
7月 14日	第1回まちづくり構想検討班会議 （書面開催）	・基本構想及び基本計画の概要及び構成案について ・策定体制、スケジュール、ワークショップについて
7月 27日	第1回みやこ町防衛施設周辺 まちづくり構想検討委員会	・基本構想及び基本計画の概要及び構成案について ・策定体制、スケジュール、ワークショップについて
8月 4日	代表者ヒアリング	・現況視察 ・新たなコミュニティ拠点施設の整備について
8月 5日～ 7日	オープンハウスワークショップ	・現在の豊津公民館の課題 ・新たなコミュニティ拠点施設の機能について
8月 18日	第2回まちづくり構想検討班会議 （書面開催）	・前回会議への回答 ・住民意向の把握調査結果の報告
8月 24日	第2回みやこ町防衛施設周辺 まちづくり構想検討委員会（書面開催）	・住民意向の把握調査結果の報告 ・骨子案、スケジュールの修正について
8月 24日	築城基地関係者との協議	・築城基地との交流について
9月 2日	第3回まちづくり構想検討班会議 （書面開催）	・前回会議への回答 ・基本構想（案）について
9月 11日	第3回みやこ町防衛施設周辺 まちづくり構想検討委員会（書面開催）	・前回会議への回答 ・基本構想（案）について
9月 23日～ 10月 22日	パブリックコメント	・基本構想（案）について
10月 27日	第4回まちづくり構想検討班会議	・前回会議への回答 ・基本構想（案）について
10月 29日	第4回みやこ町防衛施設周辺 まちづくり構想検討委員会	・前回会議への回答 ・基本構想（案）について

(2) 策定体制

①みやこ町防衛施設周辺まちづくり構想検討委員会委員 委員一覧

(任期：令和2年(2020)4月1日～令和3年(2021)3月31日)

分類	所属	役職	氏名
学識経験者	西日本工業大学	デザイン学部 建築学科 准教授	長 聡子
関係機関及び 団体の職員	みやこ町商工会	事務局長	松下 信彰
	みやこ観光まちづくり協会	事務局長	水上 斗夢
	京築広域圏消防本部	総務課長	大瀬 政彦
	みやこ町消防団	副団長	白川 周司
	みやこ町区長会	会長	是則 直幹
	みやこ町体育協会	事務局長	川寄 芳明
	みやこ町老人クラブ連合会	会長	原田 真琴
公募による者	一般公募		井上 幸子
	一般公募		富永 美由紀

2. 住民意向調査

(1) 住民アンケート

1) アンケート調査の目的

築城飛行場周辺まちづくり構想（基本構想）では、地域の実態を踏まえた「町のにぎわいや活力の創出」、「防災の強化」、「住民との交流促進」に向けて、公民館等の複合的な機能をもつコミュニティ拠点施設の整備を目指している。

構想の策定にあたり、地域住民の意見、要望を把握し、今後の取り組みを検討するための基礎資料とするため、アンケート調査を実施した。

2) 調査概要

- ①調査対象 18歳以上の豊津地域在住の方 2,499人
- ②抽出方法 無作為抽出
- ③調査方法 郵送による配布・回収
- ④調査期間 令和2年（2020）7月1日（水）から7月15日（水）
（実際の集計には8月3日までに到着したものまで含んでいる）
- ⑤回収状況 回収数 927 回答率 37%
- ⑥調査内容 設問の構成

1. 回答者の属性
問1 年齢
問2 居住年数
2. 築城基地や自衛隊の取り組みへの理解
問3 築城基地が隣接することへの感想
問4 築城基地や自衛隊の取り組みの認知度
問5 築城基地や自衛隊との交流への参加状況
問6 自衛隊との相互理解を深めるために必要と思う取り組み
3. 防災機能の強化
問7 避難所の認知度
問8 避難所に重要と思うこと
4. 町のにぎわいや活力の創出に向けた交流の場
問9 新たな施設に必要だと思うもの
問10 現在の豊津公民館各室の広さと利便性
問11 現在の豊津公民館の利用頻度
5. その他
問12 自由意見

3) 調査結果の概要

● 築城基地や自衛隊の取り組み

- ・航空祭などのイベントについての認知度が高く、参加者が多かった。
- ・一方、騒音や戦闘機などの墜落の不安を持っている回答が多かった。
- ・特に若い世代の理解や関心が低い傾向が伺えた。

● 防災機能の強化

- ・避難所の認知度は全体で 67%であり、30 代以下では 50%を下回る結果となったことから、より一層認知度を高めていくことが必要と考えられる。
- ・避難所としては、「プライバシーの確保」、「非常用電源や貯水槽などの資源の確保」、「乳幼児、高齢者、障がい者などへの特別の配慮」、「暑さ寒さ対策」などに配慮した整備が求められる。

● 町のにぎわいや活力の創出に向けた交流の場

- ・現在の公民館の各室については、広さ、利便性ともに概ね「ちょうどよい」とする傾向が伺えた。一方、トイレについては、広さ、利便性ともに改善が必要であることが確認された。
- ・新たな施設については、「カフェ・レストラン」「行政サービスの窓口」、「運動スペース」、「屋外広場」といった現在の公民館にない機能についても期待があることが分かった。

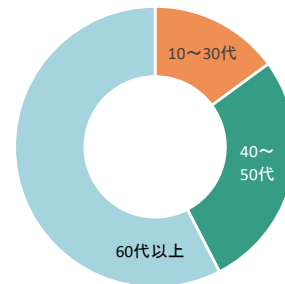
4) 調査結果の一覧

「1. あなたご自身のことについておたずねします。」

問1 ご回答いただいている方の年齢をお答えください。(1つに●)

	件数	結果
10～30代	138	15%
40～50代	254	27%
60代以上	532	58%
合計	924	100%

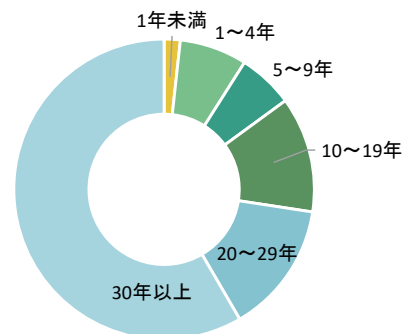
※ 無回答を除く (3件)



問2 あなたは、豊津地域に何年お住まいですか。(1つに●)

	件数	結果
1年未満	16	2%
1～4年	67	7%
5～9年	55	6%
10～19年	115	12%
20～29年	131	14%
30年以上	539	58%
合計	923	100%

※ 無回答を除く (4件)



【結果】

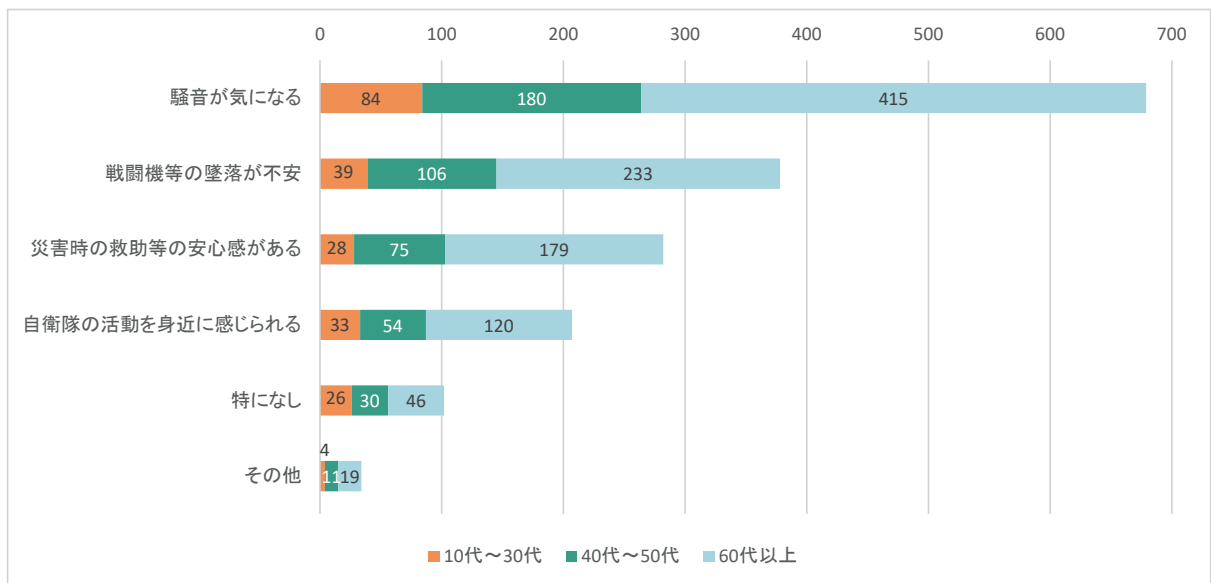
- ・10代から70代以上のすべての世代の方から回答があった。このうち過半数が60代以上の方であった。
- ・回答者の84%が10年以上豊津地域に住んでいる結果となった。

「2. 築城基地や自衛隊の取り組みへの理解についておたずねします。」

問3 みやこ町に築城基地や隣接することについて、どのように感じますか。(すべてに●)

	全体 (927名)		10～30代 (138名)		40～50代 (254名)		60代～ (532名)	
騒音が気になる	680	73%	84	61%	180	71%	415	78%
戦闘機等の墜落が不安	379	41%	39	28%	106	42%	233	44%
災害時の救助等の安心感がある	282	30%	28	20%	75	30%	179	34%
自衛隊の活動を身近に感じられる	207	22%	33	24%	54	21%	120	23%
特になし	102	11%	26	19%	30	12%	46	9%
その他	34	4%	4	3%	11	4%	19	4%

※ 割合は、各年代の回答者数のうち●をつけた人数。

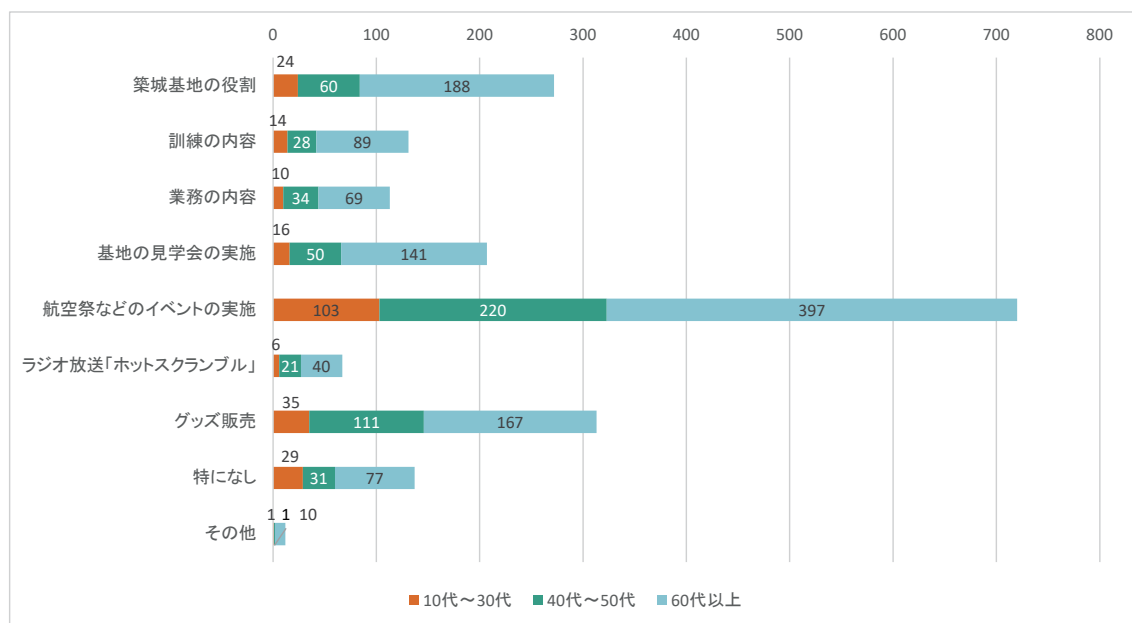


【結果】

- すべての世代で「騒音が気になる」が最も多い結果であった。
- 「騒音が気になる」「戦闘機等の墜落が不安」と回答した割合は年代が上がるにつれて多い傾向がみられる。
- 「災害時の救助等の安心感がある」と回答した割合は全体で 30%、「自衛隊の活動を身近に感じられる」と回答した割合は全体の 22%に留まっていた。

問4 築城基地や自衛隊の取り組みについて知っていることは何ですか。(すべてに●)

	全体 (927名)		10～30代 (138名)		40～50代 (254名)		60代～ (532名)	
築城基地の役割	272	29%	24	17%	60	24%	188	35%
訓練の内容	131	14%	14	10%	28	11%	89	17%
業務の内容	113	12%	10	7%	34	13%	69	13%
基地の見学会の実施	207	22%	16	12%	50	20%	141	27%
航空祭などのイベントの実施	720	78%	103	75%	220	87%	397	75%
ラジオ放送「ホットスクランブル」	67	7%	6	4%	21	8%	40	8%
グッズ販売	313	34%	35	25%	111	44%	167	31%
特になし	138	15%	29	21%	31	12%	77	14%
その他	12	1%	1	1%	1	0.4%	10	2%

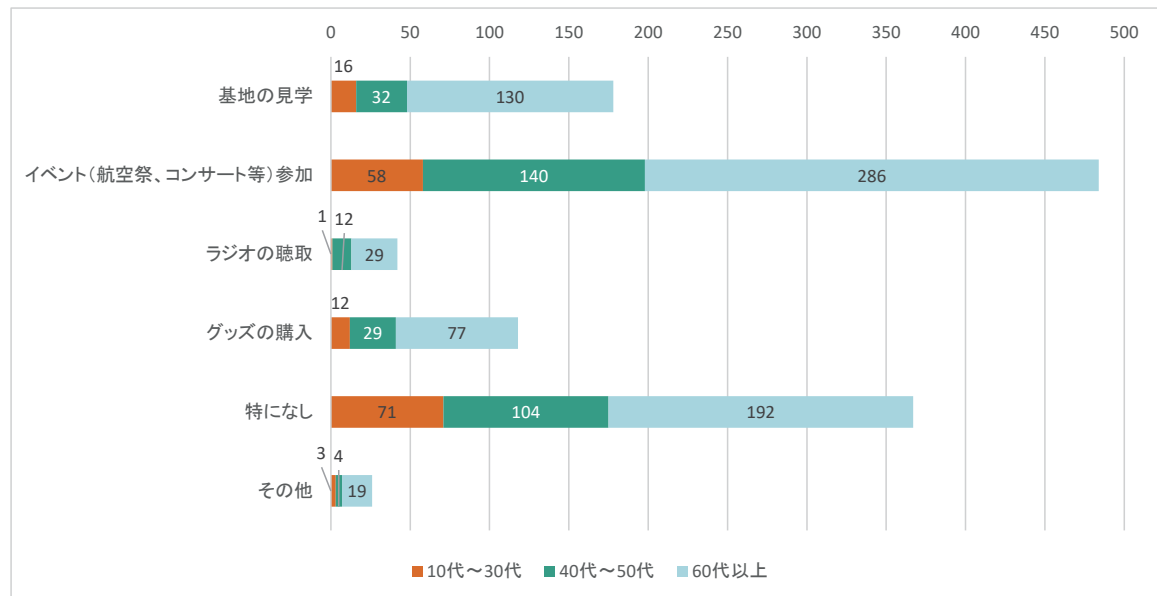


【結果】

- すべての世代で「航空祭などのイベントの実施」を知っている方が最も多い結果であった。
- 10代～30代では「特になし」と回答した割合が20%を超えていた。

問5 築城基地や自衛隊との交流に関して、おこなったことがあるものは何ですか。（すべてに●）

	全体（927名）		10～30代（138名）		40～50代（254名）		60代～（532名）	
基地の見学	178	19%	16	12%	32	13%	130	24%
イベント（航空祭、コンサート等）参加	484	52%	58	42%	140	55%	286	54%
ラジオの聴取	42	5%	1	1%	12	5%	29	5%
グッズの購入	118	13%	21	15%	29	11%	77	14%
特になし	368	40%	71	51%	104	41%	192	36%
その他	26	3%	3	2%	4	2%	19	4%

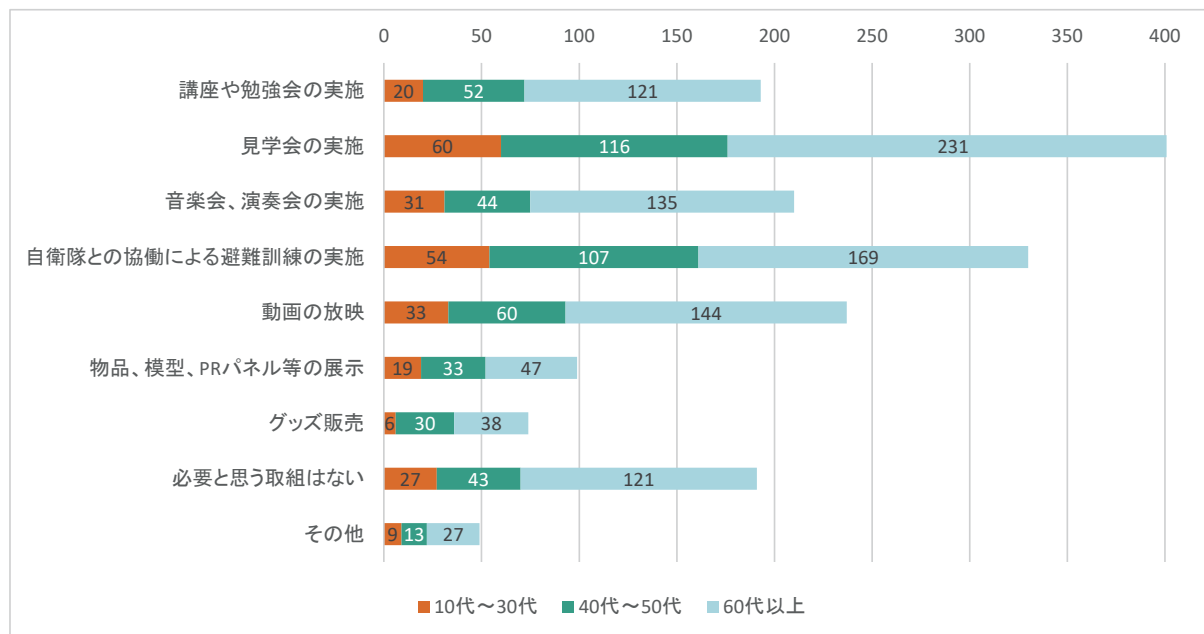


【結果】

- ・「イベント（航空祭、コンサート等）参加」をおこなったことがあるという回答が最も多い結果であった。
- ・「特になし」の回答も多く、特に30代以下では50%を超える結果であった。

問6 自衛隊との相互理解を深めるためにはどのような取り組みが必要だと思いますか。(すべてに●)

	全体 (927名)		10～30代 (138名)		40～50代 (254名)		60代～ (532名)	
講座や勉強会の実施	193	21%	20	14%	52	20%	121	23%
見学会の実施	407	44%	60	43%	116	46%	231	43%
音楽会、演奏会の実施	210	23%	31	22%	44	17%	135	25%
自衛隊との協働による避難訓練の実施	330	36%	54	39%	107	42%	169	32%
動画の放映	237	26%	33	24%	60	24%	144	27%
物品、模型、PRパネル等の展示	99	11%	19	14%	33	13%	47	9%
グッズ販売	74	8%	6	4%	30	12%	38	7%
必要と思う取組はない	192	21%	27	20%	43	17%	121	23%
その他	49	5%	9	7%	13	5%	27	5%



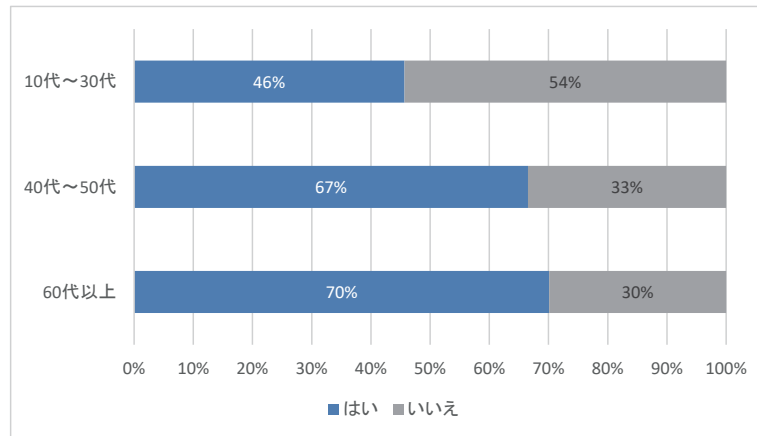
【結果】

- ・「見学会の実施」が最も多く、次いで「自衛隊との協働による避難訓練の実施」、「動画の放映」、「音楽会、演奏会の実施」が多い結果となった。

「3. 防災機能の強化についておたずねします。」

問7 災害時、どこに避難するか知っていますか。(1つに●)

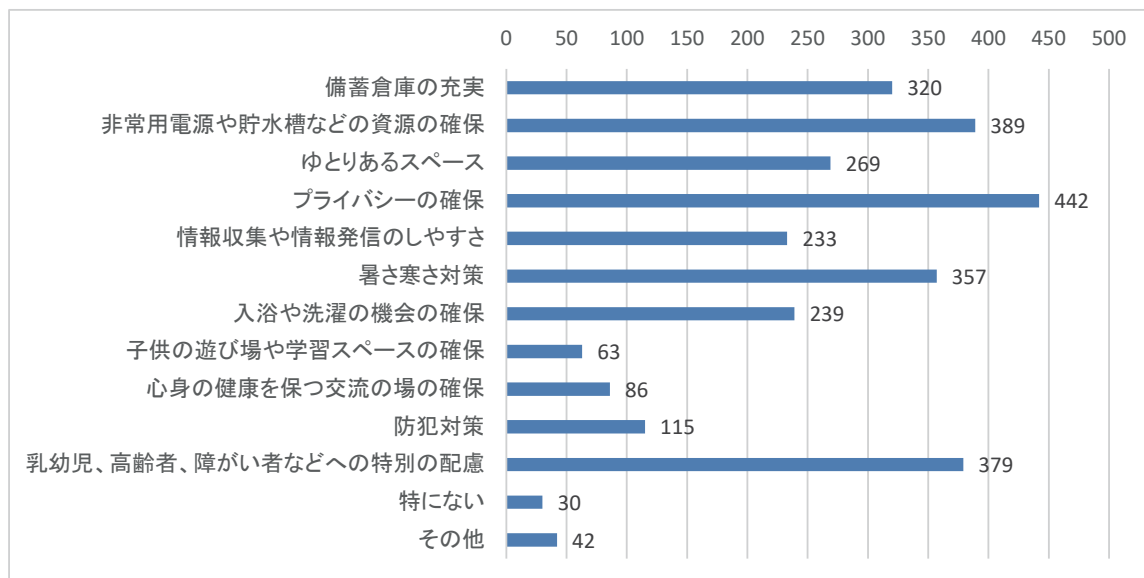
	はい		いいえ	
10～30代 (138名)	63	46%	75	54%
40～50代 (254名)	169	67%	85	33%
60代以上 (532名)	373	70%	159	30%
合計	605	65%	319	35%



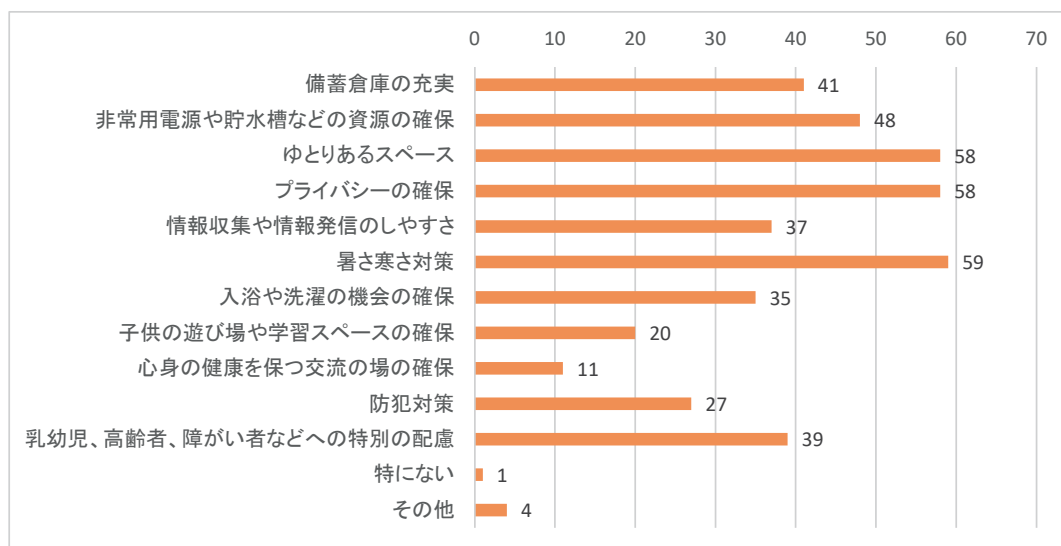
【結果】

- ・全体で 67%の方が避難する場所を知っていた。
- ・10代～30代で「はい」と回答した方の割合は40代以降に比べて低い傾向となった。

問8 避難所は、適切な規模や防災対策をおこなうことが必要ですが、
この他にあなたが避難所に重要と思うことは何ですか。（3つまで●）



全体（計 917 名）



10代～30代（計 138 名）

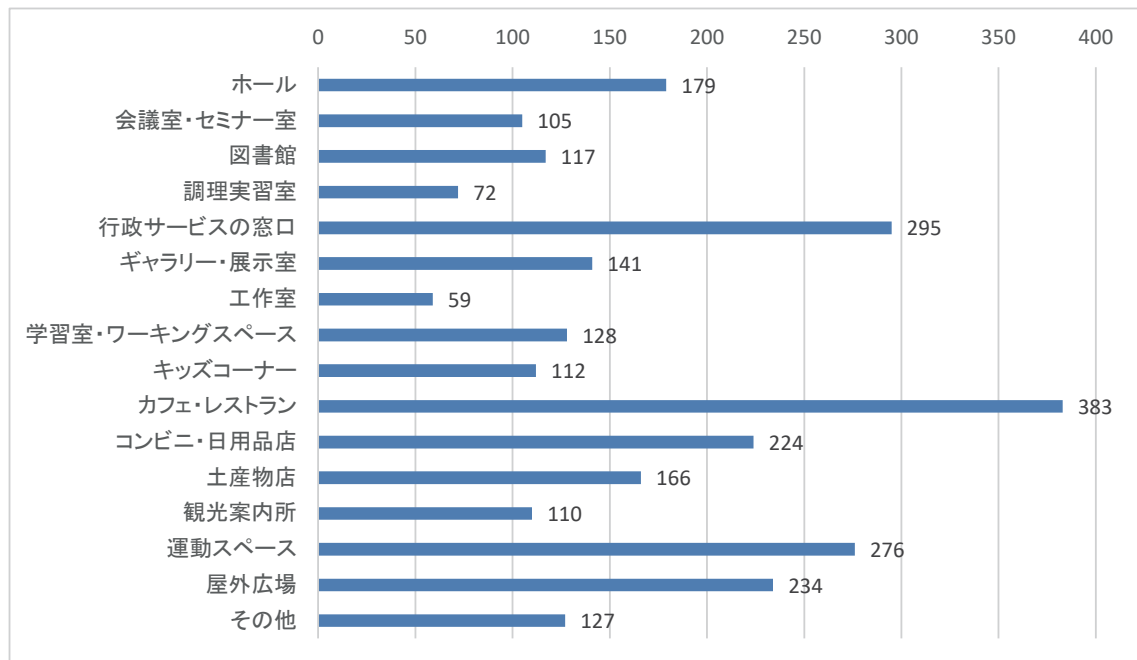
【結果】

- ・全体では、「プライバシーの確保」が最も多く、次いで、「非常用電源や貯水槽などの資源の確保」、「乳幼児、高齢者、障がい者などへの特別の配慮」、「暑さ寒さ対策」が多い結果となった。
- ・10代から30代では「暑さ寒さ対策」、「ゆとりあるスペース」、「プライバシーの確保」が多い結果となった。

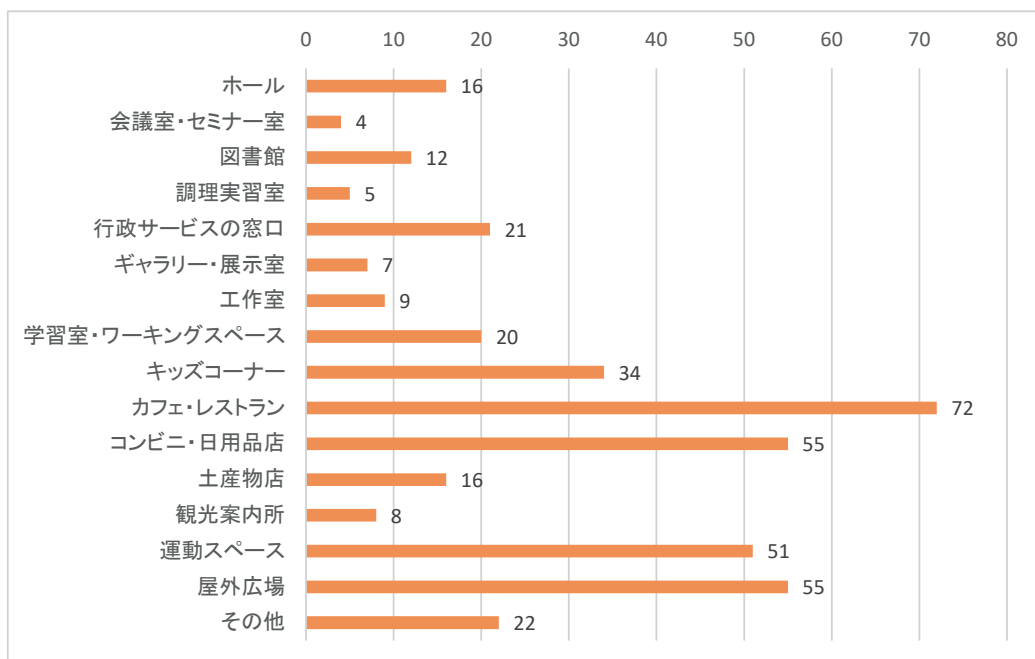
「4. 町のにぎわいや活力の創出に向けた交流の場についておたずねします。」

問9 町のにぎわいや活力を創出するための新たな施設について必要だと思うものは何ですか。

(すべてに●)



全体 (計 851 名)



10代～30代 (計 138 名)

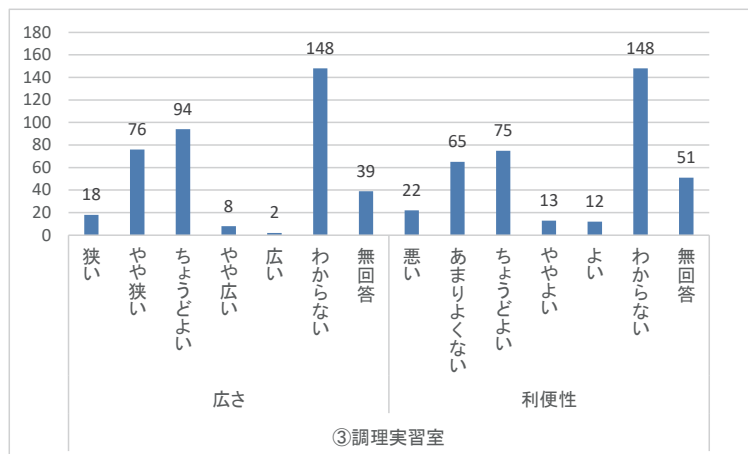
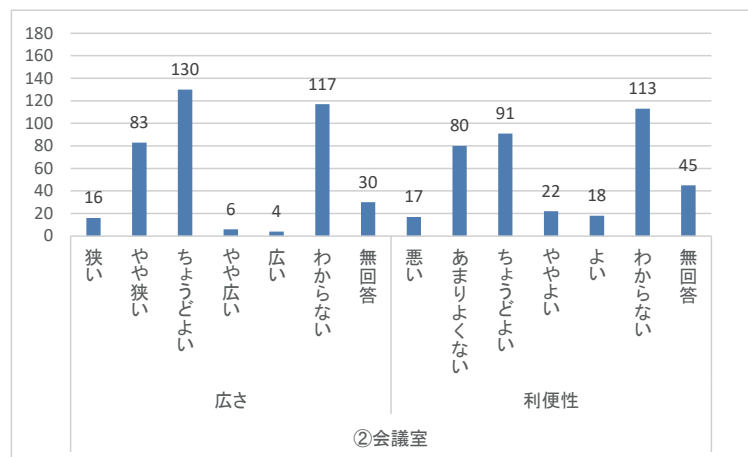
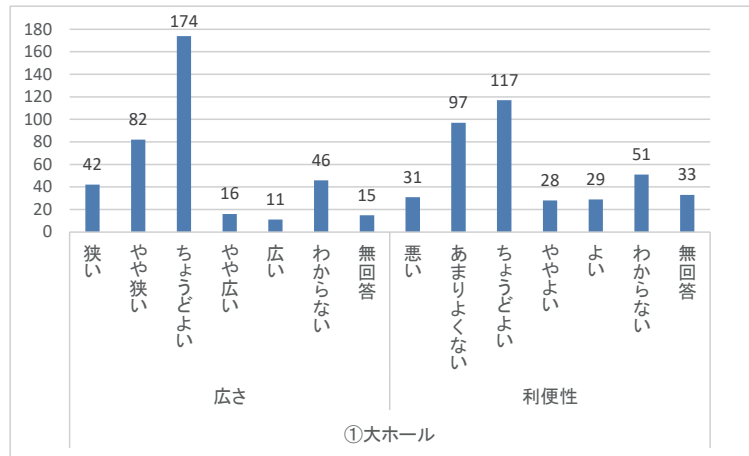
【結果】

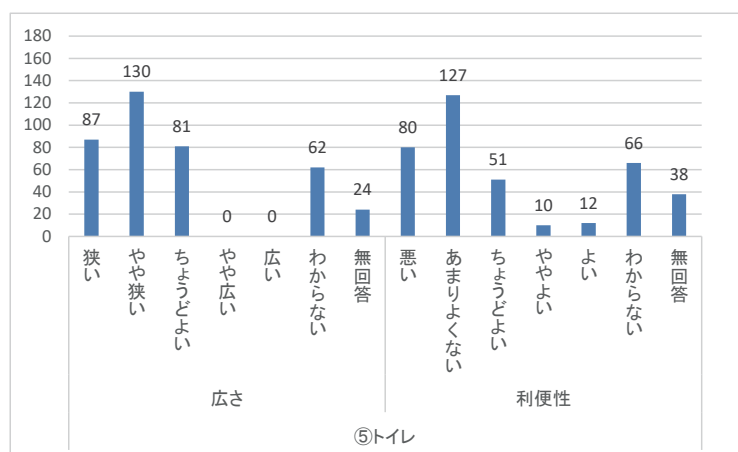
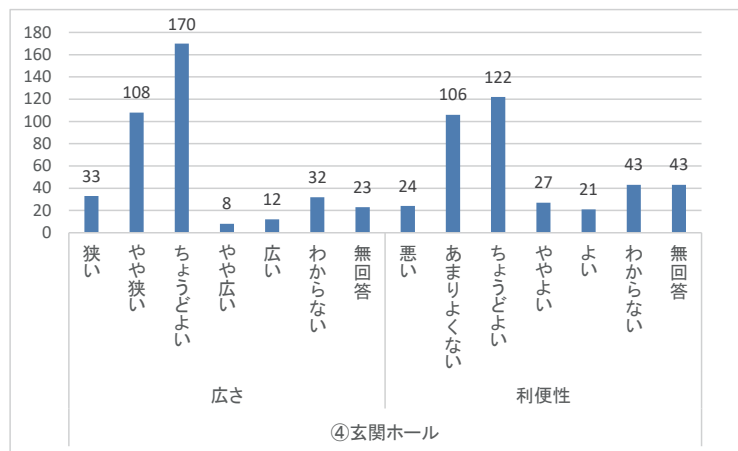
- ・全体としては、「カフェ・レストラン」が最も多く、次いで、「行政サービスの窓口」、「運動スペース」、「屋外広場」が多い結果となった。
- ・全体としては、上記以外の選択肢にも満遍なく回答が得られた。
- ・10代から30代では、「カフェ・レストラン」、「屋外広場」、「コンビニ・日用品店」、「運動スペース」が多い結果となった。

問 10 現在の豊津公民館の各部屋について、どのように思いますか。

(①～⑤について、広さと利便性のそれぞれ1つずつに●)

※問 11 より「1 年に 1 回程度」以上利用している方の回答をもとに分析しています。





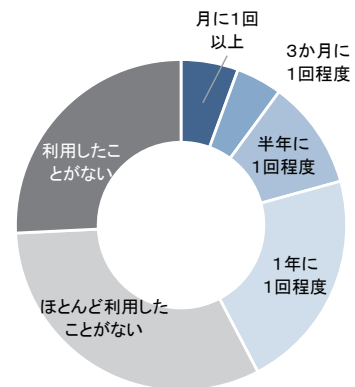
【結果】

- ・「大ホール」について、広さは「ちょうどよい」が最も多く、利便性は「ちょうどよい」「あまりよくない」が多い結果となった。
- ・会議室について、広さは「ちょうどよい」が最も多く、利便性は「ちょうどよい」「あまりよくない」が多い結果となった。
- ・調理実習室について、「わからない」という回答を除くと、広さは「ちょうどよい」が最も多く、利便性は「ちょうどよい」「あまりよくない」が多い結果となった。
- ・玄関ホールについて、広さは「ちょうどよい」が最も多く、利便性も「ちょうどよい」が多い結果となった。
- ・トイレについて、広さは「やや狭い」が最も多く、利便性は「あまりよくない」「悪い」が多い結果となった。

問 11 現在、どの程度、豊津公民館を利用していますか。(1つに●)

	件数	結果
月に1回以上	51	6%
3か月に1回程度	41	4%
半年に1回程度	97	11%
1年に1回程度	197	22%
ほとんど利用したことがない	291	32%
利用したことがない	235	26%
合計	912	100%

※ 無回答を除く (15件)



【結果】

・「ほとんど利用したことがない」、「利用したことがない」が多い結果となった。

「5. その他」

問 12 築城飛行場周辺のまちづくりについて、ご意見・ご要望があればご自由にご記入ください。

【結果】

・騒音対策の強化、施設や公園の機能強化、交通利便性の強化、イベントや観光の強化などの意見や要望を多数いただいた。

(2) 代表者ヒアリング

実施日：令和2年（2020）8月4日（火） 15：00 ～ 17：00

場 所：豊津公民館

参加者：地元代表…是則会長、緒方副会長、進副会長、吉永館長
みやこ町…進、日塚、酒井、吉永

コンサルタント…都市環境研究所九州事務所 池田、宮島

内 容：1. 開会 2. 課長挨拶 3. 概要説明 4. 現地案内
5. ヒアリング（意見交換） 6. まとめ 7. 閉会



意見交換の様子



現地視察の様子

<ヒアリングでの主な意見・アイデア>

●現在の公民館の各室について

部屋名		現況と主な意見・アイデア等
1	大ホール	コーラス、吹奏楽、新年会等で使用する。 大きさ、高さは現状で十分である。 可動式や仮設でもよいが、ステージは必要。 常設の座席はなくてよい。
2	会議室	2室を分割して使用可。 利用頻度は多くないが、年に数回は利用している。
3	茶室 (和室)	8畳が2室ある。 床、押入、水屋、炉あり。 利用は少ない。
4	コンピュータ室	もとは結婚式場として使用していた。
5	配膳室	ガスコンロ、流し、棚等がある。 ガスは止めているが、流しは使える。 絵画サークルが流しを利用する。
6	2階ホール	テーブルと椅子を配置している。 広いと感じる。
7	エントランスホール	一部にテーブル、椅子を配置している。 もう少し広くてもよい。
8	調理実習室	コンロ、流し、冷蔵庫がある。 そば打ちの会が利用している。 水回りの機能は必要。 キッチンスペースは縮小してもよいか。 春祭では盛大に利用するので、確認したほうがよい。
9	会議室	10人程度で利用しており、利用頻度は多い。 現在は1室だが、同規模の部屋が2室あるとよい。
10	駐車場	公民館前、支所北及び東に分散して配置している。 東側は周囲の施設利用者（保育所等）が利用している。 災害時にはまとまったスペースがあったほうが利用しやすいのではないか。

●新たなコミュニティ拠点施設について

- ・多目的トイレはほしい。
- ・子供が雨の日に遊べるような場があるとよい。
- ・子育て支援スペースがあるとよい。
- ・避難所としては長期避難生活（1週間以上）を想定した整備が必要。（マンホールトイレ等）

(3) オープンハウスワークショップ

実施日：令和2年(2020) 8月5日(水)～7(金) 3日間

場 所：豊津公民館エントランスホール

来場者：44名(3日間合計)

【結果概要】

●施設の規模

- ・全体的には現状の規模に満足している様子が伺えた
- ・ホールの舞台はより大きいものを期待する声があった

●外観

- ・若い世代や外国人も含めて誰もが気軽に利用しやすい外観を期待する声があった
- ・周辺環境との調和を意識した意見が多数あった

●機能

- ・現在の公民館にある機能のほか、支所、金融機関、休憩コーナー、展望コーナーなどの機能を期待する声があった
- ・災害対策の充実を望む声があった

●設備

- ・トイレ、空調設備の充実を期待する声が多かった
- ・バリアフリーを期待する意見が多かった

●運営

- ・他の公共施設と連携した運営を望む声があった
- ・ランニングコストを意識した意見が多かった



当日の様子

【オープンハウスワークショップ 結果一覧】

質問1：現在の豊津公民館の施設について課題に思うことはありますか？

●備品・倉庫

- ・そば教室に限らず、道具置き場を設置してほしい
- ・椅子、机等の備品を揃えてほしい

●空調設備

- ・クーラーが悪い
- ・エアコンを設置してほしい
- ・ホールの空調環境がよくない（温度調節）

●室等の広さ

- ・ホールより狭い部屋がほしい
- ・老人クラブの事務所が狭い
- ・階段を下りやすい幅にしてほしい
- ・ドアが広い

●トイレ・給水設備

- ・トイレの環境がよくない
- ・1階男子トイレが多目的トイレと共用で使いにくい
- ・洋式トイレにしてほしい
- ・トイレが狭い
- ・トイレが古い
- ・トイレが少ない
- ・トイレが臭い
- ・上下水道の整備をしてほしい
- ・犀川体育館くらいのトイレの数がほしい

●その他の設備

- ・古く雨漏りしている
- ・コンピューター室の設備が古く、足りない

●印象

- ・入りにくい
- ・明るく
- ・きれいに
- ・くさくない
- ・気軽に使える

質問 2 : 町のにぎわいや活力の創出に向けてどのような機能があるとよいと思いますか？

多目的ホール	44 人
カフェ・レストラン	11 人
行政サービスの窓口	11 人
会議室 (30 人以上用)	10 人
音楽スタジオ	10 人
調理実習室	10 人
コンビニ・日用品店	9 人
屋外広場	9 人
運動スペース	7 人
備蓄倉庫	7 人

会議室 (20 人程度用)	6 人
貯水槽	6 人
会議室 (10 人程度用)	5 人
非常用電源	5 人
学習室・ワーキングスペース	4 人
キッズコーナー	4 人
観光案内所	3 人
茶室	1 人
工作室	0 人
土産物店	0 人

質問 3 : 質問 2 に記載された機能以外にあるとよいと思う機能はありますか？

●ホール

- ・ホールの座席は電動の可動式がよい
- ・舞台を広く長くし、愛郷音楽祭を呼べるようにしたい
- ・のど自慢を呼べるような舞台
- ・多目的ホールの舞台を大きく
- ・コンサートできるようなホール (自衛隊吹奏隊)
- ・世界のミュージシャン、音楽家を招待できる設備
- ・国際交流できる場になるとよい
- ・外国の人が衣装を着て演舞したり、郷土料理を振る舞ったりできる場があるとよい

●会議室

- ・間仕切りできる会議室がよい (パーティション)
- ・会議室は 15 ～ 16 人くらいで利用できるものがよい
- ・事務所 (老人クラブ) が広めにほしい

●調理室

- ・調理室の充実

●学習スペース

- ・勉強スペース

●子供向けスペース

- ・子供たちに気軽に利用できるようにしてほしい
- ・キッズコーナーとレストランと融合したこども食堂
- ・子供の森のような遊び場
- ・室内公園 (すべり台)
- ・簡単な備品をおいたキッズコーナー

●展示スペース

- ・ギャラリーとして使えるコーナーがあると人を集められる
- ・展示スペースがほしい

●屋外施設

- ・芝生広場

●休憩・談話コーナー

- ・談話室
- ・喫茶のできるコーナー
- ・リラックススペース

●支所

- ・移住相談窓口
- ・支所と観光を兼ねた窓口とするとよい
- ・支所ですべてできるようにしてほしい
- ・住民が1回で用事が済むようにしてほしい

●トイレ

- ・トイレ機能の強化
- ・洋式トイレをふやしてほしい

●金融機関

- ・ATMがほしい
- ・銀行がほしい

●設備

- ・映写機がほしい
- ・ICT技術を向上できるような場がほしい
- ・全館にWi-Fiをつけてほしい

●展望コーナー

- ・屋上に上がれるとよい
- ・3階建てにして屋上を展望台にしてほしい

●バリアフリー

- ・手すりをつける
- ・エレベーターがほしい
- ・スロープがほしい
- ・2階に上る方法をバリアフリーにしてほしい

質問4：複合施設に期待することなどご意見・ご要望がございましたらお聞かせください

●コンセプト

- ・若い世帯の誘致できる施設にしてほしい
- ・住民が気軽に立ち寄れるような施設にしてほしい
- ・環境にやさしいものにしてほしい
- ・10年、20年後を想定してほしい

●外観

- ・道から公園や神社が見えるとよい
- ・おしゃれだとよい
- ・外から中が見えるとよい
- ・周辺の建物と調和する外観にしてほしい
- ・歴史を語るような外観がよい
- ・外国から来た人が歴史や文化を感じられるようにしてほしい
- ・地域に馴染む施設にしてほしい

●設備

- ・雨漏りしないようにしてほしい
- ・音の反射板
- ・防音はしっかりとしてほしい

●駐車場

- ・駐車場、駐輪場の設備
- ・駐車場は現状くらいでよい
- ・乗降車で雨に当たらないとよい

●規模

- ・今の公民館の規模がよい
- ・財源的に一階建てがよい、広さは十分とれる

●取り組み

- ・基地のアピールになることをもっとやるとよい
- ・大学と連携した最先端の取り組み

●災害対策

- ・災害が多いとき、非常時の避難所機能に主体を置いてほしい
- ・災害用、非常用の設備をおいてほしい

●コスト

- ・費用対効果（コストパフォーマンス）を十分に考えて計画してほしい
- ・ランニングコストを十分に考慮してほしい

●他施設との連携

- ・地区公民館を利用できるものは地区公民館で
- ・「すどり」の設備との連携を考える（「すどり」にあるものはカットする）

3. 築城基地の現況把握と意見交換

(1) 築城基地の概要

施設名称：航空自衛隊築城基地

主な所在地：福岡県築上郡築上町大字西八田

面積：2.45 km²

人員等：約 1500 名

使用部隊：第8航空団、第6・8飛行隊、第7高射隊、管制隊、気象隊、警務隊、情報保全隊

使用状況等：実戦配備基地として、F-2（約 40 機）、T-4（数機）等により、飛行訓練やスクランブル発進等が行われている。

(2) 最近の障害等の実態

表 部品落下一覧

発生日時	場所	詳細
平成31年(2019) 2月20日	山口県見島 東方 約20キロ付近の洋上(訓練空域)	第8航空団(築城基地)所属のF-2B戦闘機が訓練空域で1対1での対戦闘機戦闘訓練を実施中、事故機(2番機)が操縦不能状態となり、操縦者2名は緊急脱出し、機体は洋上へ墜落。
令和元年(2019) 9月2日	-	部品落下(F-2 機) スクリュー(ねじ) 大きさ：長さ約37mm×直径約5mm(頭部) 約3mm(軸部) 重さ：約2.14g 材質：ステンレス
令和元年(2019) 9月11日	-	部品落下(F-2 機) クイックリリースピン・ボール 大きさ：直径約1.6mm 重さ：約0.02g 材質：ステンレス
令和元年(2019) 9月26日	築城飛行場 滑走路 路上	第8航空団所属のF-2戦闘機が、築城基地を離陸し、洋上における訓練を終了した。訓練後、築城基地への着陸時、脚が下りていない状態で、機体の一部が滑走路に接触し、再離陸を行った。当該機は、洋上で脚を下げ、異常がないことを確認し、築城基地に再着陸した。
令和元年(2019) 10月17日	山口県見島の北西 約20キロの洋上(訓練空域)	航空自衛隊築城基地所属F-2戦闘機が訓練空域で飛行訓練中、ドラッグシュート(着陸時使用する制動傘)が洋上に落下。 開傘時 全長：約20m 幅：約7m 重量：約23kg
令和2年(2020) 3月11日	築城基地から山口 県沖の日本海側訓練空域(詳細不明)	3月11日13:04~14:31の間、航空自衛隊築城基地所属F-2戦闘機が飛行訓練中、F-2Aのガラス製の部品が割れ、一片が0.1g未満と思われる破片となって落下した模様。 部品詳細 直径：27cm(半球形) 重量：350g

(3) 構想策定に向けた関係者協議（実施日：令和2年8月24日）

築城基地関係者との協議により、交流を図る取り組みとしての実現度を検討しました。

区分	項目	内容	実現度
広報	装備品・模型等の展示	提供又はレンタル可能な装備品等を展示し、利用客が気軽に見ることができるエリアを設置する。	△
	グッズの販売	築城基地等で販売されているグッズの一部を販売することで、基地を身近に感じてもらうとともに、基地への愛着を深める。	△
	VR等を活用した航空機搭乗体験	VRを使って戦闘機に乗った感覚を感じてもらい、自衛隊への興味関心を深める。	△
	自衛隊活動のビデオ動画上映	自衛隊活動の様子をビデオ動画で上映することにより、地元住民への自衛隊活動の理解を深める。	○
隊員との交流	壁一面に航空機写真展示	航空機写真等を常設展示し、基地の活動を身近に感じてもらう。	○
	子ども用パイロットスーツ（記念撮影用）	来館した利用客に対して子ども用パイロットスーツを貸し出し、自衛隊員になりきって記念撮影することで、自衛隊への興味関心を深める。	△
	フィットネスジム	自衛隊員と地元住民が使用できるジムを設置することで、筋肉を通じた交流が生まれ、自衛隊への理解促進につながる。	○
	講演会、セミナー等	地元住民に対して防衛講演会やセミナーなどを開催することで、基地の役割や現状を理解してもらい、相互理解を促進する。	○
	自衛隊員との婚活イベント	自衛隊員との婚活イベントを開催し、地元住民との交流、関係人口の拡大、定住促進を図る。	○
	自衛隊員による筋肉のつけ方指導	自衛隊員による筋肉のつけ方指導を開催することにより、地元住民との交流が生まれるとともに、地元住民の健康寿命の延伸にもつながる。	○
	自衛隊員による料理教室（カレー、からあげ等）	自衛隊のカレーやからあげのレシピを伝授することで、料理を通じた交流が生まれ、自衛隊への理解促進が図れる。	○
	家族交流会	隊員の家族と地元住民の家族の交流会。異動等により実家から離れ、支援を受けづらい隊員とその配偶者の子育てを支援するとともに、地元住民とのママ友・パパ友づくりの輪をひろげる。	○
イベント等	太鼓演奏（要調整）	音楽イベントを開催することで、自衛隊への理解促進を図る。	○
	コンサート（要調整）	音楽イベントを開催することで、自衛隊への理解促進を図る。	○
	フォトクラブ等による写真展	戦闘機等の撮影をするアマチュアカメラマンの成果発表の場として写真の展示会を開催する。	○
募集関係	入隊募集関連事務（説明会）の実施	入隊募集関連事務を行う。	○
	入隊募集に関連するパンフレット等設置	入隊募集関連事務を行う。	○
	入隊募集に関連する装備車両等の設置	入隊募集関連事務に合わせ、自衛隊の装備車両を展示し、興味関心を深める。	○
防災関連	合同防災訓練	自衛隊と地元住民が協働で防災訓練を実施することにより、有事の際のスムーズな対応を確立するとともに、相互理解を深める。	○
	大型車両の通行・駐車スペース	施設周辺の道路や駐車スペースの確保を図る。	
	炊事車等の活動スペースとして屋根付きスペースの設置	雨天時の炊事車の活動が円滑に行われるよう、屋根付きスペースを検討する。	

4. パブリックコメント結果

本構想の策定にあたって、構想素案に対する住民の意見や提案を把握し、構想に反映するために、パブリックコメントを実施しました。

周知方法	○町ホームページにパブリックコメントの実施を掲載 ○みやこ町役場本庁行政経営課、豊津支所、犀川支所、豊津公民館、町ホームページで築城飛行場周辺まちづくり構想（基本構想）（案）及び概要版（案）を閲覧
募集期間	令和2年（2020）9月23日（水）～10月22日（木）
提出方法	意見等記入用紙に必要事項を記入し、みやこ町役場行政経営課へ持参又は郵送、メール、ファックス
募集結果	3通 12件 うち、整備方針について 6件 全体意見について 4件 その他意見について 2件

築城飛行場周辺まちづくり構想《基本構想》～新たなコミュニティ拠点施設の整備～ 概要版

パブリックコメント用

序章

1. 背景と目的

本構想は、町のにぎわいや活力の創出と防災機能の強化に向けた新たなコミュニティ拠点施設の整備を目的とし、策定するものです。

2. 基本構想の対象地

・・・第一種区域にある豊津公民館とその周辺を対象地とします。

3. 策定体制

・・・みやこ町防衛施設周辺まちづくり構想検討委員会、まちづくり構想検討協議会の意見を踏まえて策定します。
また、住民意見を把握するアンケート調査、ワークショップ等を行いました。



第1章 みやこ町・豊津地域の概要

1. 沿革
2. 位置・面積
3. 地勢
4. 気候
5. 人口
6. 土地利用（法規制現況）
7. 公共交通
8. 防災
9. 航空自衛隊築城基地

第2章 上位関連計画との関係性

1. 第2次みやこ町総合計画
2. 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略
3. みやこ町都市計画マスタープラン
4. みやこ町公共施設等総合管理計画とみやこ町公共施設再配置計画
5. みやこ町地域防災計画
6. 京築広域景観計画

第4章 まちづくりの課題

1. 公共施設の再配置と利用促進
2. 住民の豊かな交流を育む機能導入
3. 避難所の機能強化
4. 災害における必要な物資などの備蓄
5. 交流に関する住民活動の促進

第5章 基本構想

1. 基本理念

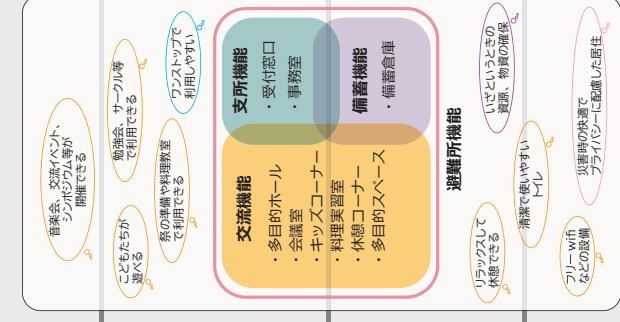
（仮）誰もが「豊かな交流」と「安心」を身近に感じるコミュニティ拠点の形成

2. 基本方針

- （1）豊かな交流や活力を創出する施設整備
 - 交流機能
 - ・公共施設の集約化により利便性の向上を図ります。
 - ・住民の交流を育む新たな機能を複合的に導入します。
 - 防災機能
 - ・多目的ホール・会議室・キッズコーナー・多目的スペース
 - ・料理実習室・休憩コーナー・支所機能
 - ・受付窓口・事務室
- （2）防災機能を強化する施設整備
 - 避難所機能
 - （○交流機能・支所機能の災害時利用）
 - 備蓄機能
 - ・備蓄倉庫
- （3）住民の交流促進に向けた取り組みの推進
 - 利用促進
 - ・サークル、祭、イベント、展示、防災訓練等
 - 維持管理
 - ・清掃、片付け、定期的な点検等
 - 情報発信
 - ・HP、SNS等での発信、更新等

3. 整備方針

（参考）施設の導入機能と施設構成イメージ



第6章 今後の進め方

令和7年の完成を目指し、基本計画、実施計画、実施設計、建設工事の推進に取り組めます。

第3章 住民意向の把握

1. 調査概要（住民アンケート、代表者ヒアリング、オープンハウスワークショップ）

2. 調査結果

築城飛行場周辺まちづくり構想 基本構想

発行：令和2年10月 みやこ町

住所：〒824-0892 福岡県京都郡みやこ町勝山上田960番地

TEL：0930-32-2511（代表）

FAX：0930-32-4563（代表）

URL：<https://www.town.miyako.lg.jp/>

E-mail：miyako@town.miyako.lg.jp